始

1-223

擔架教程

388
175

388-175

陸普第四八二三號

擔架教程改正ノ件達

陸軍一般

擔架教程別冊ノ通改正ス

明治四十四年陸普第二九一二號新式擔架及患者車使用法ノ實施ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

大正八年十二月十五日

陸軍大臣　田中義一

（甲）

大 12.12.24 内交

注意

擔架術教育ニハ黑點ヲ附シタル章ノミヲ教ヘ其ノ他ハ必要ニ際シテ教育スルモノトス

擔架教程目次

第一編

第一章　要領　一頁

第二章　勤務　一

第二編

第三章　擔架　二

第四章　繃帶嚢　五

第五章　體　六

第六章　創傷及容體　八

十二

第七章　血止メ　十五
第八章　患者ノ手當　十七

第三編

第九章　擔伍編成　二十二
第十章　擔架ノ取扱　二十二
第十一章　擔架隊ノ運動　二十六
第十二章　患者ノ搜索及救助　三十六
第十三章　手運ヒ　四十
其ノ一　一人ニテスル運搬　四十
其ノ二　二人ニテスル運搬　四十七
第十四章　馬ヨリ卸シ方　四十八

第十五章　擔架ニ載セ方　五十
第十六章　擔架運搬　六十
第十七章　交代　六十三
第十八章　障碍物ノ越シ方　六十八
第十九章　渡船ニ載セ方　七十三

第五編

第二十章　吊擔架　七十四
第二十一章　患者車　八十四
　　八十七
　　八十七
　　九十一

其ノ一　構造　九十一
其ノ二　組ミ方及解キ方　九十五
第二十二章　患者車ニ載セ方　九十八
第二十三章　患者車ノ行進　百五
第二十四章　應用車輛　百七
第二十五章　馬ノ應用　百九
第六編
第二十六章　輕便鐵道車ノ構造　百十
第二十七章　輕便鐵道車ノ設備　百十一
第二十八章　輕便鐵道車輛ニ載セ方　百十二

第二十九章　手押輕便鐵道車　百十四
第七編
第三十章　病院列車、患者列車　百十五
第三十一章　列車ニ載セ方　百十五
第八編
第三十二章　病院船、患者輸送船　百十七
第三十三章　汽船ニ載セ方　百十九
第九編
第三十四章　急造作業　百十九
第三十五章　工具　百二十
百二十二
百二十二
百二十二
百二十三

第三十六章　繩ノ使ヒ方　百二十四
第三十七章　急造擔架　百四十一
第三十八章　急造副木　百五十九
第十編
第三十九章　携帶天幕幕舍　百六十二
第四十章　赤十字旗、赤十字燈、道標及燈　百六十二
百七十一

擔架教程

第一編

第一章　要領

第一　擔架術ノ目的ハ患者ヲ救助運搬スルニアリ

第二　擔架術ヲ以テ患者ヲ救フト武器ヲ取リテ敵ニ當ルトハ其ノ動作異ナレトモ其ノ精神ハ同シ

第三　擔架術ヲ學フ者ハ先ツ救急法及衛生法大意ヲ知ルヲ要ス

第四　擔架術ノ動作ハ總テ號令ヲ以テ行フヘシ但患者又ハ患者ヲ載セタル擔架ヲ取扱フ場合ノ號令ハ緩カニ下スヘシ

第五　敵ノ已ニ傷キテ武器ヲ棄テタルモノハ赤十字條約ノ旨ニ遵ヒテ齊シク救フヘシ

第二章　勤務

第六　擔架術ヲ卒業セル歩兵隊ノ戰列兵ニシテ隊長ノ命ニ依リ一時患者ヲ救助スルモノヲ補助擔架卒ト云フ

補助擔架卒ハ隊繃帶所ニ至リ銃ト背嚢トヲ卸シ白布ヲ右袖上部ニ纏ヒ擔架及繃帶嚢（繃帶嚢ハ隊繃帶所ニ勤務スル上等看護卒ノモノヲ借ルモノナレハ毎擔伍皆携フルニアラス）ヲ受ケ戰線ニ進ム

第七　擔架術ヲ卒業セル砲兵隊ノ戰列兵ハ隊長ノ命ニ依リ患者ヲ救助スルコトアリ

第八　擔架術ヲ卒業セル豫備役後備役及補充兵役兵卒ニシテ衞生隊ニ屬スルモノヲ擔架卒ト云フ

擔架卒ハ赤十字臂章ヲ左袖上部ノ外側ニ縫ヒ著ク（第一圖）

第一圖

第九　戰鬪ニ際シ隊附衛生部員ハ戰線ニ在リテ患者ヲ救助シ歩兵隊ニアリテハ其ノ一部ヲ以テ隊繃帶所ヲ開クコトアリ

第一〇　戰鬪隊ノ後方ニハ衛生隊アリ本部、擔架中隊及車輛中隊ヨリ成ル本部ノ衛生部員ハ繃帶所ヲ開キ擔架中隊ハ擔架ヲ以テ戰線ノ患者ヲ繃帶所ニ運搬シ車輛中隊ハ患者車及吊擔架ヲ以テ繃帶所ノ患者ヲ野戰病院ニ運搬ス

第一一　隊繃帶所、繃帶所及野戰病院ニハ赤十字旗ト國旗トヲ併セ立ツ夜ハ更ニ赤十字燈ヲ掲ク

第一二　補助擔架卒及擔架卒ハ患者ノ救助ニ關シテハ衛生部員ノ指揮ヲ受ク

第二編

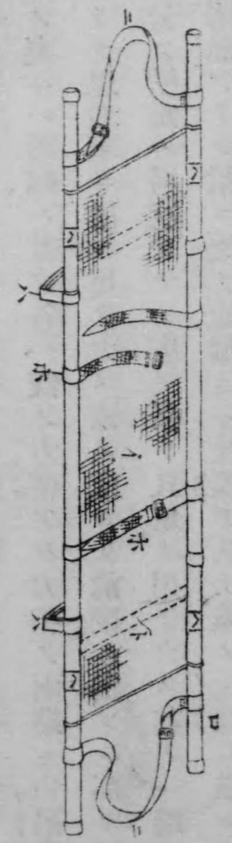
第三章　擔架

第一三　擔架ハ床一箇、轅、横鐵、帶紐及負紐各二箇ヨリ成ル

床ハ長方形ノ「ヅック」ニテ作リ兩縁ニ轅ヲ通ホス長キ管アリ床ノ裏ニハ兩端ニ近ク各一條ノ力帶アリ力帶ノ兩端ニハ吊鐶アリテ患者車ニ吊ル用ヲナス轅ノ床ヨリ前後ニ出ツル部ヲ柄ト云フ横鐵ハ弓狀ヲナシ床ヲ張リ且足ノ用ヲナス其ノ一端ニハ關節アリテ轅ニ連リ他端ニハ牡螺アリテ轅ノ牝螺ニ嵌マル負紐ハ其ノ兩端ノ耳ニ柄ヲ通ホシ肩ニ掛ク帶紐ハ美如ニテ止

メ患者ノ轉ヒ落ツルヲ防ク（第二圖）

第二圖



アヽホニヽロイ
力耳帶負擔繃床
帶囊組組機

第四章　繃帶囊

第一四　繃帶囊ノ內ニアル主ナル物品左ノ如シ

一　「メンタ」酒ハ氣分惡シキ者及卒倒（ツツトウ）シタル者ニ數十滴ヲ少シノ冷水ニ加ヘテ飲マシム此ノ藥ハ常ニ瓶ノ栓ヲ密ニシ置クヘシ

二　昇汞「ガーゼ」包中ニアル昇汞「ガーゼ」ハ消毒藥ニ浸シ薄赤ク染メタル薄キ木綿ナリ戰線ニ於テハ先ツ負傷者ノ上衣ノ左裾裏ニ納ムル繃帶包ノ中ノモノヲ用ヰ其ノ不足スルトキ始メテ繃帶囊中ノモノヲ用ヰルヘシ

三　螺旋止血帶ノ用法ハ第七章ヲ見ルヘシ

四　卷軸帶ハ衞生部員ノ用ヰルモノナレトモ三角巾足ラサル

トキハ擔架卒モ亦之ヲ用ヰルコトヲ得

五　「ゴム」絆創膏ハ主ニ昇汞「ガーゼ」ヲ固定スルニ用ヰラル

六　安全針ハ繃帶ノ末端ヲ止ムルニ用ヰラル

七　雜用鋏ハ繃帶及患者ノ被服等ヲ剪リ解クニ用ヰラル

八　「ナイフ」ハ急造副木及急造擔架ヲ造ルニ用ヰ又患者ノ被服繃帶等ヲ剪リ解クニモ用ヰラル

第五章　體

第一五　體ヲ分チテ頭、頸、胴及上肢、下肢トス

第一六　頭ヲ分チテ頭蓋及顏トス頭蓋ノ中ニハ腦アリ精神ノ宿

ル所ナリ顏ニハ目、鼻、口アリ顏ト頭蓋トノ界ニ耳アリ

第一七　頸ノ前ニ突出スルヲ喉頭トス喉頭ハ下、氣管ニ由リテ肺ニ連ル呼吸ノ道ナリ

喉頭ノ左右ニ大ナル動脈アリ喉頭、氣管ノ後ニハ食道アリ食道ハ下、胃ニ通ス

第一八　胴ヲ分チテ胸、腹トス胸ノ後ヲ脊ト云ヒ腹ノ後ヲ腰ト云フ

第一九　胸ノ前ニ胸骨アリ後ニ脊柱アリ肋ハ其ノ間ニ亘サレタリ

胸ノ中ニハ心臟及肺ヲ藏ム

第二〇　心臟ハ胸骨ト左乳(チチ)トノ間ニ在リ血ノメグル中心ニシテ動脈ニ由リテ體ニ新ナル血ヲ送ル動脈ハ次第ニ小キ枝ニ分ル體ニテ使ヒ古サレタル血ハ靜脈(ジヤウミヤク)ニ由リテ心臟ニ歸リ更ニ肺ニ送ラレ肺ニテ空氣ニ遇ヒ新ニナリタル血ハ復タ心臟ニ歸ル

第二一　心臟ハ血ヲ送リ出ス毎ニ動悸(ドウキ)ヲナス其ノ數ハ一分間ニ六十乃至八十ナリ

動脈ハ動悸毎ニ脈(ミヤク)ヲ擊チ靜脈ハ脈ヲ擊タス稍大ナル動脈淺キ處ニ在ルトキハ指ニテ脈ヲ觸ル脈ハ手ノ根ノ上、屈側ノ拇指側ニテ取ル

第二二　肺ハ心臟ヲ圍ミテ左右ニ在リ肺ハ通例一分間ニ十五回乃至二十回呼吸ヲナス

第二三　胸ト腹トノ界ニ横隔膜(ワウカクマク)アリ腹ノ中ニハ胃、腸(チヨウ)、肝(カン)、腎(ジン)等ノ臟腑(ゾウフ)アリ又臀(シリ)ノ骨ヲ骨盤(コツバン)ト云ヒ其ノ中ニ膀胱(バウクワウ)及直腸(チヨクチヨウ)アリ

胃腸ハ食物ヲ消化シ腎、膀胱ハ尿ヲ泄ス器官ナリ

第二四　脊柱ハ頸ヨリ腰ニ亘リ其ノ中ニ脊髓(セキズイ)ヲ藏ム

第二五　上肢ハ肩(カタ)ノ關節(フシ)ニテ肩ニ連ル上膊(ニノウデ)ニハ一本前膊(マヘウデ)ニハ二本ノ骨アリ手ニハ許多ノ骨アリ上膊ト前膊トノ間ニ肘(ヒヂ)ノ關節アリ前膊ト手トノ間ニ手ノ關節アリ

第二六　下肢ハ股(マタ)ノ關節ニテ骨盤ニ連リ大腿(フトモモ)ニハ一本下腿(スネ)ニハ二本ノ骨アリ足ニハ許多ノ骨アリ大腿ト下腿トノ間ニ膝ノ關

節アリ下腿ト足トノ間ニ足ノ關節アリ

第六章　創傷及容體

第二七　創傷ニハ挫傷、挫創、切創、刺創及彈創等アリ彈創ニハ銃創、砲創、爆彈創アリ

銃創ニハ單ニ皮ヲ擦リタルモノ、體ヲ貫キタルモノ、彈丸體內ニ留マルモノアリ

砲創ニハ破片ニ由ルモノ、彈子ニ由ルモノアリ破片ノ創ニハ甚タ大ナルモノアリ彈子ノ創ハ略ホ銃創ニ似タリ

第二八　創ニ輕キト重キトアリ

輕キモノトハ傷小サク且皮若ハ筋肉ノミ傷キタルヲ云フ重キモノトハ傷ノ大ナルモノ血多ク出ツルモノ卒倒ヲ伴フモノ臓腑傷キタルモノ大ナル骨ノ折レタルモノ等ナリ

第二九　腦傷クトキハ重キハ死シ輕キモ卒倒スルヲ常トス

第三〇　顏ノ創ニテ骨傷キ若ハ目、鼻、耳等ノ貴キ器官ヲ損ヘルモノハ重シ

第三一　喉頭又ハ氣管傷クトキハ呼吸迫リ窒息スルニ至ル

第三二　心臓傷クトキハ大抵死シ大ナル動脈傷キテ多ク血ヲ失フトキハ死ス

第三三　肺傷クトキハ呼吸迫リ血ノ痰ヲ喀ク

第三四　胃腸傷クトキハ血ヲ吐キ又ハ血ヲ下シ腎、膀胱傷クトキハ尿ニ血ヲ混シ又ハ尿止マルコトアリ

總テ腹ノ傷ニテ顏蒼サメ腹痛ヲ覺ユルモノハ臟腑傷キタル疑アリ

第三五　脊髓傷クトキハ其ノ部以下ノ體ハ知覺運動ヲ失フ

第三六　彈創、刺創ニテ以上ニ述ヘタル容體ナキモノト雖入口ト出口トノ方向ニ依リ臟腑傷キタル疑ヲ起サシム

第三七　骨ノ折レタル容體及出血ノコトハ救急法及衞生法大意ニ示セリ

第七章　血止メ

第三八　少シノ出血ハ其ノ部ヲ高クシ創ニ繃帶ヲ施セハ暫クニシテ止マルモノトス尙止マラサルトキハ更ニ昇汞「ガーゼ」ヲ重ネ當テ三角巾ニテ稍强ク卷クヘシ

第三九　上肢若ハ下肢ノ傷ニシテ出血甚シキトキハ止血帶ヲ用キルヘシ

止血帶ヲ施スニハ先ツ創ヨリ心臟ニ近キ脈ヲ觸ルル處ヲ指ニテ壓シ血ヲ止メ置キ其ノ傍ニ止血帶ヲ引キツツ强ク卷キ緊メ止メ置クヘシ

第四〇　止血帶ハ繃帶ニテ掩ヒ隱サレヌヤウニスヘシ又止血帶ヲ裝ヒタル患者ノ體ニハ其ノ見易キ處ニ必ス赤布ヲ纏フヘシ

第四一　止血帶ヲ緊メタル處ヨリ下、著シク紫色ヲ帶フルハ動脈ノ壓迫足ラサル爲ナリ此ノ場合ニハ指ニテ脈ヲ壓シ止血帶ヲ緩メ暫クアリテ再ヒ緊ムヘシ

止血帶ヲ緊メテヨリ二時間ナルトキハ昇汞「ガーゼ」ヲ創ニ當テ壓シツツ一タヒ止血帶ヲ緩メ暫クアリテ再ヒ緊ムヘシ

第四二　止血帶ヲ緊メタル患者ハ溫存シテ運搬シ且常ニ創ノ部ニ注意シ繃帶ニ血染マルコト著シキトキハ止血帶ヲ緊メ直スヘシ

第四三　止血帶ヲ緊メタル患者ハ成ルヘク速ニ衞生部員ニ渡シ其ノ際必ス止血帶ノ緊メアルコトヲ告クヘシ

第四四　以上ノ他血止メニ就キテハ救急法及衞生法大意ニ從フヘシ

第八章　患者ノ手當

第四五　挫傷ノ輕キハ手當ヲ要セス卒倒セル者臟腑傷キタル疑アル者ハ溫存シテ運搬スヘシ骨折レタル者ハ副木其ノ他ノ手當ヲナスヘシ

第四六　輕キ彈創、切創、刺創、挫創ニシテ出血多カラサル者

ハ單ニ繃帶ヲ施スヘシ

昇汞「ガーゼ」及三角巾ノ用法ハ救急法及衛生法大意ニ見ユ

擔架術修業者ハ此ノ他ニ簡單ナル卷軸帶ノ用法（輪卷（ワマキ）、螺旋卷（ネジマキ）、折返卷（オリカヘシマキ））ヲ知ルヲ要ス

第四七 創口ニ彈丸、刀刃ノ折、被服ノ片、木竹片等アルヲ見ルトモ除クコト勿レ

第四八 顏ノ彈創、切創等ニテ卒倒セル者若ハ腦傷キタル疑アル者ハ溫存シテ運搬スヘシ

總テ創ノタメニ卒倒ノ狀ニ在ル者ハ救急法及衛生法大意ニ示セル卒倒ノ手當ヲナサズ溫存シテ運搬シ衛生部員ニ渡スヘシ

但シ飲ミ得ルトキハ「メンタ」酒ヲ與フルヲ可トス

第四九 喉頭、氣管ノ創ニテ呼吸迫レル者ハ速ニ軍醫ニ告ケ若ハ溫存シテ運搬シ速ニ軍醫ニ渡スヘシ

第五〇 胸ノ創ニテ肺傷キタル疑アル者ハ容體輕キモ溫存シテ運搬スヘシ呼吸迫リ又ハ痛甚シキ者ハ傷キタル側ヲ下ニシ若ハ背ノ下ニ疊ミタル被服等ヲ入レテ上半身ヲ高クスルトキハ苦痛ヲ和クルコトアリ

胸ノ創ヨリ息出ツル者ハ昇汞「ガーゼ」ニテ厚ク掩ヒ繃帶ヲ行フヘシ

胸、腹ノ創ノ繃帶ハ弛ミ易シ先ツ絆創膏ニテ昇汞「ガーゼ」ヲ

止メ置クヲ可トス

第五一 腹ノ創ニテ胃、腸等ノ臓腑傷キタル疑アル者ハ最モ温存シテ運搬スヘシ患者ハ膝ヲ屈シテ側臥セシムルヲ可トシ創ノ狀況ニヨリ仰臥セシムルトキハ被服藁束ノ類ニテ屈シタル膝ノ位置ヲ固定スヘシ

腹ノ創ヨリ臓腑出テタルトキハ手ヲ觸レサルヤウ昇汞「ガーゼ」ニテ掩ヒ繃帶ヲ施スヘシ

胃、腸傷キタル疑アル患者ニハ飲料ヲ與ヘサルヲ可トス

第五二 頭、頸、胴ノ創ニテ臓腑傷カス創小サクシテ皮、筋肉ノミ傷キタル者ハ大抵歩ムコトヲ得

第五三 上肢若ハ下肢ノ創ニテ骨折レ若ハ其ノ疑アルトキハ先ツ創ニ繃帶ヲ施シタル後適宜ニ副木ヲ用ヰ上肢ナラハ胸ノ前ニ吊リ若ハ創ナキ手ニテ支ヘシメ下肢ナラハ創ナキ下肢ト括リ合セテ固定スヘシ

第五四 上肢ノ輕キ創ハ歩ムコトヲ得骨折アルモ輕キ者ハ副木ヲ當テ前膊ヲ吊リテ歩ミ得ル者多シ

第五五 下肢ノ創ニテモ輕キ者ハ大抵歩ムコトヲ得

第五六 上肢若ハ下肢斷タレ又ハ斷タレントシテ僅ニ連リタル者ハ血出テストモ先ツ創ヨリ上ノ處ニ止血帶ヲ緩ク卷キタル後、創ニ繃帶ヲ施シテ運搬シ血出ツルトキハ直ニ之ヲ緊ムヘ

シ

第三編

第九章　擔伍編成

第五七　擔伍ノ編成及運動ハ本教程ニ據ルノ他歩兵操典ヲ參照スヘシ

第五八　擔伍ノ編成ハ通例四人伍トス場合ニヨリテハ三人伍又ハ二人伍トナスコトアリ

第五九　四人伍ヲ編成スルニハ左ノ號令ヲ下ス

集　レ

此ノ號令ニテ兵卒ハ直チニ二列横隊ニ整列ス次ニ四人伍ト告諭シ番號ヲ呼ハシメタル後基準伍ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

左(右)(右左)ニ歩間隔に閉け　進メ

豫令ニテ基準伍ハ其ノ儘動クコトナク其ノ他ノ各卒ハ左(右)向ヲ爲シ駈歩ノ姿勢トナリ動令ニテ漸次駈歩ニテ間隔ヲ取リ正面シテ間隔ヲ正シ基準伍ニ準フ次ニ左ノ號令ヲ下ス

偶數右に閉め　進メ

豫令ニテ偶數伍ハ右向ヲ爲シ動令ニテ速歩ニテ間隔ヲ閉ム

第六〇　三人伍ヲ編成スルニハ前ノ如ク二列横隊ニ整列セシメ三人伍ト告諭シ三數番號ヲ呼ハシメタル後左ノ號令ヲ下ス

右向け　右

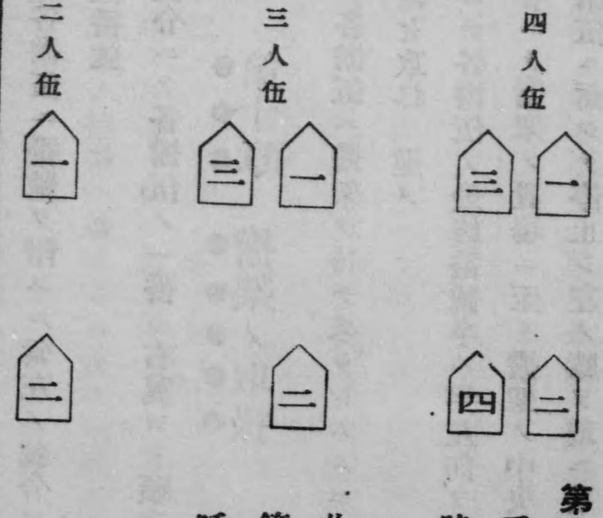
動令ニテ各卒右向ヲ爲シ各二番ノ前列兵ハ前ノ伍ノ中間ニ進ミ同後列兵ハ後ノ伍ノ中間ニ退キ三列縱隊トナル次ニ左ノ號令ヲ下ス

左向け　左

動令ニテ各卒左向ヲ爲シ各伍ノ中間ノ兵卒ハ前列ニ進ミ次ノ伍トノ中間ニ入ル次ニ番號ヲ呼ハシメ其ノ後ノ動作ハ第五九ニ同シ

第六一　二人伍ヲ編成スルニハ整列ノ後二人伍ト告諭シ番號ヲ呼ハシメタル後基準伍ヲ示シ四歩間隔ニ開カシム

第三圖



第六二　擔伍內各卒ニ番號ヲ附スル爲左ノ號令ヲ下ス

各卒番號

此ノ號令ニテ各卒ハ第三圖ノ如ク番號ヲ呼フ

第六三 各擔伍ニ番號ヲ附スル爲左ノ號令ヲ下ス

擔伍番號

此ノ號令ニテ各擔伍ノ一番ハ右翼ヨリ順次番號ヲ呼フ

第十章 擔架ノ取扱

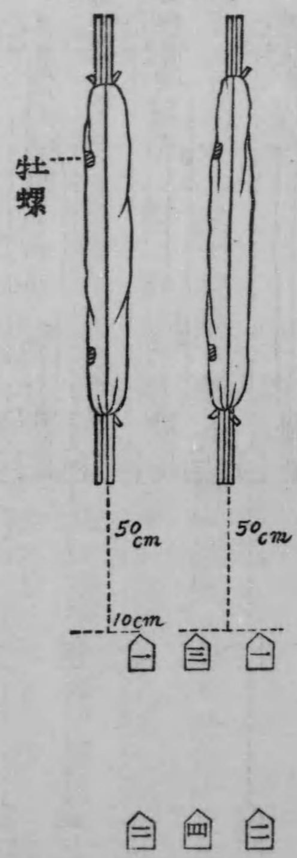
第六四 各擔伍ニ擔架ヲ持チ來ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擔架を取れ　進メ

豫令ニテ各擔伍ノ最終番號卒ハ半左向ヲ爲シ駈歩ノ姿勢トナリ動令ニテ擔架ノ置場ニ至リ擔架ノ中央ヲ右肩ニ擔ヒ列前ニ至リ擔伍ニ面シテ停止シ左ノ膝ヲ地ニ著ケ擔架ヲ自己ノ左側

ニ第四圖ノ如ク正シク置キ舊位ニ復スヘシ

第四圖



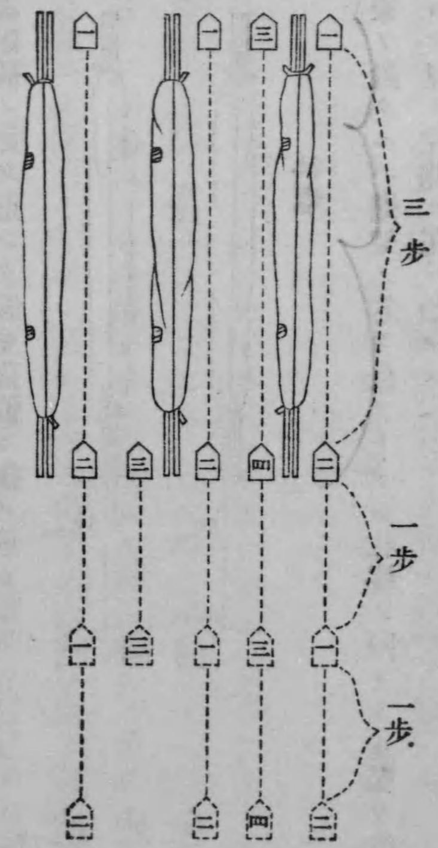
擔架ヲ置クニハ擔架ノ卷キ目ヲ上トシ牝螺ノ附キタル轅ヲ擔伍ヨリ見テ左側ニ在ル如クスヘシ

第六五 擔架ノ持場ニ著カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

持場に著け　進メ

動令ニテ各卒ハ同時ニ發進シテ第五圖ノ如ク持場ニ著クモノトス

第五圖



第六六　擔架ヲ造ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

造れ　擔架

豫令ニテ各卒ハ其ノ持場ニ於テ一齊ニ擔架ニ面シ動令ニテ右膝ヲ地ニ著ケ一番二番ハ擔架ヲ立テタル膝ノ上ニ支ヘ三番四番ハ帶紐ノ美如ヲ解キ各卒共同シテ床ヲ排キ横鐵ノ關節ヲ下ニシテ擔架ヲ起シ一番二番ハ柄ヲ持チテ轅ヲ水平ニ保チ三番四番ハ前後ノ横鐵ヲ立テ同一ノ調子ニテ牡螺ヲ充分ニ螺チ込ミ床ヲ張リ各卒共同シテ擔架ヲ正シク置キ負紐ヲ柄ニ嵌メテ床ノ上ニ置キ帶紐ノ美如ヲ止メタル後各卒ハ持場ニ復シ正面スヘシ

三人伍ニテハ一番二番ハ一手ニ柄ヲ持チ他手ニテ牡螺ヲ螺チ込ミ三番ハ兩者ヲ助クル他四人伍ニ同シ

擔架ノ螺子ニハ土砂ノ附カサル樣注意スヘシ

第六七 造リタル擔架ヲ擧ケシムルニハ負紐右(左)肩ト告諭シタル後左ノ號令ヲ下ス

擧ケ　擔架

豫令ニテ一番二番ハ擔架ノ兩柄ノ間ニ入リ各卒同時ニ右膝ヲ地ニ著ケ一番二番ハ負紐ヲ右(左)肩上ニ懸ケ(此ノ際三番四番ハ之ヲ助ク第六八ノ負紐ヲ脫スルトキ亦同シ)兩手ヲ以テ柄ヲ持ツ三番ハ一番ノ左側(三人伍ニ在リテハ二番ノ左側)四番ハ二番ノ左側ニ在リテ各右手ヲ以テ柄ヲ握リ動令ニテ各卒一齊ニ立ツ

第六八 擧ケタル擔架ヲ置カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

置ケ　擔架

動令ニテ各卒同時ニ右膝ヲ地ニ著ケ一番二番ハ負紐ヲ脫シ一齊ニ起チテ舊位ニ復ス

第六九 造リタル擔架ヲ收メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

收め　擔架

豫令ニテ各卒ハ其ノ持場ニ於テ一齊ニ擔架ニ面シ動令ニテ右膝ヲ地ニ著ケ擔架ヲ起シ一番二番ハ柄ヲ持チテ轅ヲ水平ニ保チ三番四番ハ同一ノ調子ニテ牡螺ヲ戻シテ横鐵ヲ外シ各卒共

同シテ之ヲ床ノ上ニ廻ハシ擔架ヲ正シク置キ負紐ノ一端ヲ牝螺アル轅ヨリ脱シテ床ノ上ニ置キ床ヲ横鐵ノ側ヨリ卷キ終リテ帶紐ヲ卷キ美如ニテ止メ持場ニ復シテ正面スヘシ

第七〇　收メタル擔架ヲ提ケシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)に提け　擔架

動令ニテ三番四番(一番二番)ハ右膝ヲ地ニ著ケ自己ニ近キ柄ヲ右(左)手ニテ握リ直チニ起ツ一番二番(三番四番)ハ其ノ儘動クコトナシ

三人伍ニ在リテハ「右に提け」ノトキ一番ハ豫令ニテ横ニ擔架ヲ越エテ左側ニ移リ動令ニテ三番ト共ニ動作ヲナス二番ハ其ノ儘動クコトナシ

二人伍ニ在リテハ「右に提け」ノトキ兩者共ニ横ニ擔架ヲ越エ左側ニ移リ動令ニテ動作ヲナスヘシ

第七一　擔架ヲ擔ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擔へ　擔架

動令ニテ柄ヲ握リタル右(左)手ヲ少シク擧クルト同時ニ左(右)手ニテ其ノ前部ヲ上ヨリ握リ更ニ右(左)手ヲ下ヨリ握リ換ヘテ右(左)肩ニ擔ヒ左(右)手ヲ下ス

第七二　擔ヒタル擔架ヲ提ケシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

提け　擔架

動令ニテ前ト反對ノ動作ヲ以テ右(左)手ニ提ク

第七三　提ケタル擔架ヲ置カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

置け　擔架

動令ニテ右膝ヲ地ニ著ケテ之ヲ置キ直チニ起ツ提ケサル各卒ハ其ノ儘動クコトナシ

三人伍ニ在リテ右ニ提ケタルトキハ一番ハ起立スルト共ニ持場ニ復スヘシ二人伍ノ一番二番モ亦同シ

第七四　各卒ヲ舊位ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

舊(モト)位に返れ　進メ

動令ニテ各卒一齊ニ後向ヲナシ同時ニ發進シテ舊位ニ復シ正面ス

第七五　擔架ヲ組マシムルニハ右翼擔伍ヨリ三數番號ヲ附シタル後左ノ號令ヲ下ス

組め　擔架

動令ニテ各擔伍ノ最終番號卒ハ駈歩ニテ擔架ノ左側ニ進ミ各二番擔伍ノ卒ハ擔架ノ中央ヲ握リ前端ヲ上ケテ其ノ儘之ヲ起シ其ノ他ノ卒ハ後向ヲナシ左膝ヲ地ニ著ケテ擔架ヲ右肩ニ擔ヒ二番擔伍ノ前ニ至リ其ノ擔架ヲ軸トシテ三脚ニ組ム

組ミ終リタルトキハ二番擔伍ノ卒ハ「宜(ヨ)シ」ノ相圖ヲナシ各卒一齊ニ手ヲ放シ駈足ニテ舊位ニ復ス

第七六 組ミタル擔架ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解け　擔架

動令ニテ前ト反對ナル動作ヲナス

第七七 擔架ヲ置場ニ持チ行カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擔架を納め　進メ

動令ニテ第六四ト反對ノ動作ヲナシテ置場ニ納ムヘシ

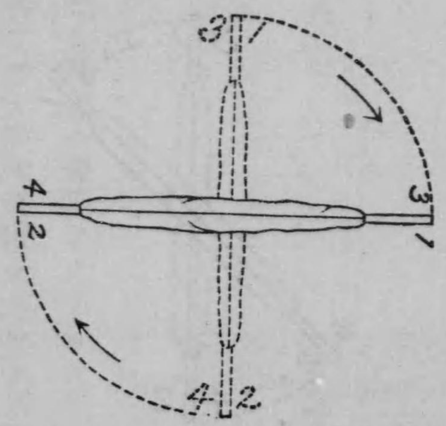
第十一章　擔架隊ノ運動

第七八 擔伍ヲ右(左)向ニナスニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向け　右(左)

動令ニテ擔架ノ中央ヲ軸トナシ前列卒ハ右(左)ニ後列卒ハ左(右)ニ弧線狀ニ三歩ヲ進ミテ新方向ニ向フ(第六圖)

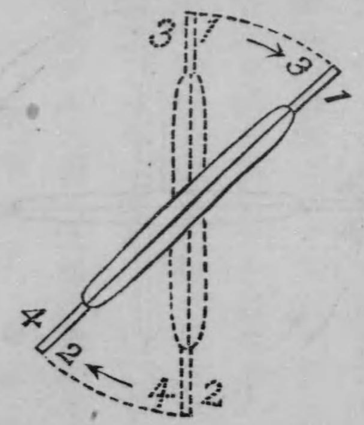
第六圖



總テ擔架ノ運動ヲ開始スルトキ擔架ヲ持チ居ラサル卒ハ其ノ豫令ニテ擔架ノ柄ニ手ヲ添ヘ擔架ヲ置キ又ハ擔フトキ其ノ豫令ニテ手ヲ放ス

第七九 擔伍ニ半右(ナカバ)(左)向ヲナサシムルニハ左ノ號

第七圖



令ヲ下ス

半右(左)向け　右(左)

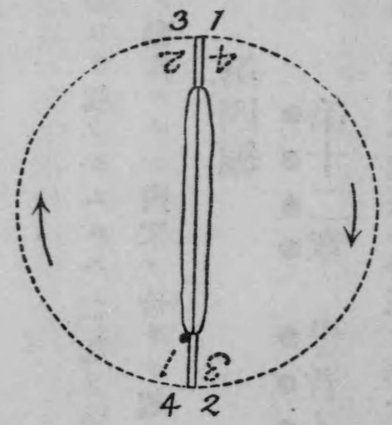
動令ニテ前ノ如キ動作ヲ以テ半右(左)ニ向フ(第七圖)

第八〇　擔伍ヲ後向ニナスニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪に右へ　進メ

動令ニテ各擔伍ハ第七八ノ要領ニ從ヒ弧線狀ニ六歩ヲ進ミテ後向トナル(第八圖)

第八圖



第八一　各擔伍ノ行進中歩ヲ止ムルコトナク背面行進ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪に右前へ　進メ

動令ニテ各擔伍ハ第八〇ノ要領ニ從ヒテ轉回ヲナシ行進スヘシ

第八二　擔伍ニ膝姿ヲナサシムルニハ「折敷」ノ號令ニテ各卒ハ膝姿ヲナシ擔架ヲ持チタル手ヲ放スコトナク擔架ヲ持タサル

手ハ膝ノ上ニ置ク

第八三　擔伍ニ伏姿ヲナサシムルニハ「伏セ」ノ號令ニテ各卒兩膝ヲ地ニ著ケ擔架ヲ地ニ置キタル後兩手ヲ地ニ著ケ伏姿トナル

伏姿ヨリ起タシムルニハ「起テ」又ハ「前ヘ」ノ號令ニテ前ト反對ノ動作ヲナシ擔架ヲ持チテ起ツ

第四編

第十二章　患者ノ捜索及救助

第八四　擔架分隊長ハ分隊ヲ率キテ前進シ必要ニ應シ之ヲ散開セシメ適當ノ地點ニ達セハ地物ヲ利用シテ擔伍ヲ停止セシメ各擔伍ヨリ捜索兵ヲ出シ擔任區域内ノ患者ヲ捜索スヘシ

第八五　捜索兵ハ左右ノ連絡、分隊長及擔架番トノ連絡ヲ失ハサルヲ要ス

第八六　捜索兵ハ地物ヲ利用シ駈歩ニテ前進シ時時伏姿トナリテ偵察シ要スルトキハ匍匐スヘシ

捜索兵ト擔架番若ハ分隊長トハ患者ヲ發見シタルトキノ信號ヲ定メ置クヘシ

第八七　戰線ヨリ來ル者アルトキハ患者ノ在ル所ヲ問フヘシ

第八八　捜索ニハ患者ノ據ルヘキ地物（岡ノ蔭、地隙、溝、家

屋、垣又ハ樹木ノ蔭等）ニ注意スヘシ創ヲ受ケテ卒倒セシ者又ハ重キ創アル者モ戰友ノ助ニ依リテ地物ニ據ルコトアリ

火線ノ現位置ニ進ム前ニ一タヒ火線タリシ地點ニ注意スヘシ

戰鬪前ニ隊ノ前進セシ道路、戰鬪前後ニ休止シ又ハ飲食セシ地點ニ注意スヘシ

兵食、被服等ノ遺棄シアル處ニ注意スヘシ

布片等ノ目標（メジルシ）アル處ニ注意スヘシ

第八九 捜索ニハ患者ノ救ヲ求ムル聲、呻吟（ウメキ）、鼾聲（イビキ）等ニ注意スヘシ夜間ニ於テ殊ニ必要ナリ

敵ニ聞エサル程ノ聲ニテ患者ヲ喚フヘシ

第九〇 夜ノ捜索ニハ分隊長ハ特ニ部下擔伍ヲ集結シ捜索兵トノ連絡ヲ密ニスルヲ要ス

第九一 夜ノ捜索ニハ上官ノ命ニ依リ捜索燈其ノ他ノ燈器ヲ用キルコトアリ

敵前ニテ捜索燈ヲ使用スルニハ燈火ヲ敵ニ向ケサル樣嚴ニ注意ヲ要ス

白壁ノ如キ面ニ反射スル火光ハ遠方ヨリ發見セラレ易シ

戰鬪後敵ノ顧慮ナキ場合ニハ有ユル燈火ヲ用ヰテ捜索スルコトヲ得

第九二　搜索兵ハ戰線ニ到ルトキハ先ツ隊附衛生部員トノ連絡ニ努ムヘシ

第九三　擔架卒ハ夜間敵前ニ於テ左ノ事ニ注意スヘシ

一　夜間ニハ特ニ沈勇靜肅ナランコトヲ心掛クヘシ

二　高聲ヲ發スヘカラス談話ニハ呟語ヲ用ヰルヘシ

三　裝具ハ確實ニ裝ヒ運動スルトキ音響ヲ發セサルヤウニスヘシ

四　外套ハ裾高ク揭クヘシ

五　靜ニ步行スヘシ

六　擔架ヲ造リ又ハ之ヲ收メ或ハ地上ニ置クトキニハ特ニ靜ニシ他物トノ衝突ヲ避クヘシ

第九四　搜索兵患者ヲ發見シタルトキ其ノ場所危險ナラハ速ニ之ヲ地物ノ蔭ニ運搬シ豫メ定メタル信號ヲ用ヰテ擔架ヲ招キ若ハ手運ニテ擔架ノ位置ニ運フヘシ

第九五　重キ患者ニハ先ツ背囊ヲ卸シ被服ノ緊迫ヲ除キ渴アル者ニハ水筒ノ湯茶ヲ少シツツ飲マシメ要スレハ「メンタ」酒ヲ與ヘ次ニ繃帶副木等ノ手當ヲナスヘシ

第九六　凡テ患者ノ手當ハ患者ヲ安全ナル地ニ運搬シタル後之ヲ行フヘシ但シ出血甚シキ者ニ血止メヲ行フコトハ一刻モ猶豫スヘカラス

第九七　夜間又ハ地形安全ナラサルトキ若ハ隊繃帶所、繃帶所近キトキハ繃帶ヲ行ハスシテ速ニ運搬スルヲ利アリトス

第九八　地隙又ハ壕中ニ在ル患者ハ繩、紐等ヲ與ヘテ引キ擧クルヲ要スルコトアリ之カ爲擔架卒ハ此等ノ材料ヲ携フルヲ可トス

第九九　多數ノ患者ヲ戰線ヨリ速ニ運搬シ去ル必要アルトキハ莚蓆等ニ載セ若ハ簾ニ卷キテ牽クヲ便トスルコトアリ

第一〇〇　擔架ヲ使用シ難キ狹キ塹壕内等ノ運搬ニハ手運ヒヲ用ヰ又ハ特種ノ擔架若ハ急造擔架ヲ使用ス

第一〇一　輕キ患者ハ所要ノ處置ヲ施シタル後勉メテ歩マシムヘシ場合ニ依リテハ擔架ニ附キテ歩マシメ若ハ隊繃帶所、繃帶所ノ位置ヲ示シテ後退セシム

第一〇二　武器裝具ハ爲シ得ル限リ患者ト共ニ運搬スヘシ銃ハ裝塡ノ有無ヲ檢シ裝塡シアルトキハ抽彈スヘシ射擊スヘカラス又彈藥ハ附近ノ戰鬪兵ニ渡スヘシ然ラサレハ患者ト共ニ運搬スヘシ

第一〇三　重キ患者ノ身邊又ハ彼服、裝具ノ開キ易キ處ニ貴重品ヲ認メタルトキハ上官ニ報告スヘシ

死體ノ私物モ之ニ準ス

第十三章　手運ヒ

其ノ一　一人ニテスル運搬

第一〇四　一人ニテ運搬スルニ負ヒ方ト抱キ方トアリ負ヒ方ハ長途ニ耐フルモ創傷及容體ニ依リテ抱キ方ヲ便トスルコトアリ

甲　負ヒ方　運搬者ハ患者ノ前ニ背ヲ向ケ片膝ヲ地ニ著ケ患者ハ兩手ヲ運搬者ノ肩ニ掛ケ運搬者ハ兩手ニテ患者ノ腿ヲ支ヘ負ヒ起ツヘシ（第九圖甲）

長途ノ運搬ニハ廣キ布片（携帶天幕、毛布等）ヲ以テ患者ノ腰ニ纏ヒ其ノ端ヲ運搬者ノ胸ニ結ヒテ扶ケ支フルコトアリ

乙　抱キ方　運搬者ハ患者ノ一側ニ立チ患者ノ足ノ方ノ膝ヲ地ニ著ケ患者ノ背ト臀トノ下ニ前膊ヲ送リ患者ハ兩手ヲ運搬者ノ頸ニ纏ヒ自ラ體ヲ支フ運搬者ハ先ツ患者ヲ抱キ上ケテ其ノ體重ヲ立テタル膝ニ托シ然ル後地ニ著ケタル膝ヨリ起ツヘシ

抱クトキ一枚ノ布片、卷脚絆若ハ帶革等ノ中央ヲ患者ノ臀ニ當テ其ノ兩端ヲ結ヒ合セテ運搬者ノ肩ニ懸ケ扶ケ支フルトキハ運搬容易ナリ（第九圖乙）

第九圖

甲

第九乙圖

其ノ二　二人ニテスル運搬

第一〇五　坐位ニテ運搬スルニ次ノ四法アリ共ニ長途ノ運搬ニ耐ヘ易キモ創傷及容體ニ依リ坐スルコトヲ得サル者ニ用ヒ難シ又甲、乙、丙ノ三法ハ運搬者二人竝ヒ歩ムヲ以テ狹キ通路ニ行ヒ難シ

甲　片手組ミ　運搬者二人ハ患者ノ兩側ニ寄リ患者ノ足ノ方ノ膝ヲ地ニ著ケ各一手ヲ患者ノ臀ノ下ニ送リ互ニ手ヲ握リ合ハセ他ノ手ヲ患者ノ背ヨリ互ニ肩ニ支ヘ患者ハ兩手ヲ運搬者ノ肩ニ掛ケ自ラ支フヘシ（第一〇圖甲、乙）

第一〇圖

甲

此ノ時一人ハ「宜シ」ノ相圖ヲナシ他ノ一人ハ左ノ號令ヲ下ス

起テ

此ノ號令ニテ二人一齊ニ起ツヘシ次ニ

第一〇圖

乙

前ヘノ號令ニテ右側ノ者ハ右足ヨリ左側ノ者ハ左足ヨリ歩ミ始ム

乙　輪持チ　腹卷、卷脚絆、麻繩若ハ藁ニテ輪ヲ作リ各一手

第一一圖

ニテ握リ(第一一圖)其ノ上ニ患者ヲ坐セシム其ノ後ノ動作ハ前ニ同シ

此ノ法ハ運搬者ノ疲勞ヲ減スル利アリ

丙　手車　二人ノ運搬者ハ兩手ニテ手車ヲ形ツクリ(第一二圖)患者ヲ其ノ上ニ坐セシメ患者ハ手ヲ運搬者ノ頸ニ掛ケテ支フ其ノ後ノ動作ハ前ニ同シ

此ノ法ハ患者坐スルニ便ナレトモ自ラ體ヲ支ヘ得サル者ニハ行ヒ難シ

第一二圖

手ヲ運搬者ノ肩ニ掛ケテ自ラ支ヘ前ノ運搬者ハ患者ノ臑ヲ

丁　馬乘リ　一人ハ第一〇四甲「負ヒ方」ノ如ク患者ノ前ニ背ヲ向ケ片膝ヲ地ニ著ケ他ノ一人ハ患者ヲ扶ケテ背ニ縋ラシメ兩手ヲ患者ノ股ノ間ヨリ送リテ前ノ運搬者ノ帶革ヲ握リ其ノ上ニ坐セシム患者ハ兩

第一三圖

支フ

此ノ時後ノ運搬者ハ「宜シ」ノ相圖ヲナシ前ノ運搬者ハ左ノ號令ヲ下ス

起テ

此ノ號令ニテ二人一齊ニ起ツヘシ次ニ

前ヘ

ノ號令ニテ前後運搬者共ニ左足ヨリ歩ミ初ム（第一三圖）

第一〇六 臥位ノ儘運搬スルニ次ノ三法アリ共ニ長途ニ堪ヘ難シ故ニ坐シ難キ者又ハ近距離ノ運搬ニ用ヰラル

第一四圖

甲 縦抱キ 運搬者ノ一人ハ患者ノ頭ニ近ツキ片膝ヲ地ニ著ケ己ノ胸ノ前ニ患者ノ頭ヲ當テ兩手ヲ患者ノ腋ノ下ニ送リ胸ノ前ニ

テ左右ノ指ヲ組ミ他ノ一人ハ患者ノ脚ノ間ニテ片膝ヲ地ニ著ケ兩手ヲ以テ患者ノ腿ヲ抱ク其ノ後ノ動作ハ前ニ同シ（第一四圖）

此ノ法ハ胸ニ創アル者、呼吸迫レル者ニハ用ヰ難キコトアリ

乙 向ヒ抱キ 運搬者二人ハ患者ノ兩側ニ寄リ患者ノ足ノ方ノ膝ヲ地ニ著ケ各手ヲ患者ノ背ト下肢トノ下ニ送リ互ニ兩手ヲ入レ違ハセ患者ヲ擡ケテ抱ク患者ハ自ラ手ヲ兩運搬者ノ帶革若ハ頸ニ掛ケテ支フ其ノ後ノ動作ハ第一〇五甲「片手組ミ」ニ同シ（第一五圖）

第一五圖

丙　横抱キ　運搬者二人ハ患者ノ一側ニ在リテ共ニ患者ノ足ノ方ノ膝ヲ地ニ著ケ一人ハ手ヲ患者ノ肩ト腰トノ下ニ一人ハ臀ト腿トノ下ニ入レ患者ハ手ヲ運搬者ノ肩ニ掛ケテ自ラ支フ

第一六圖

其ノ後ノ動作ハ乙「向ヒ抱キ」ニ同シ（第一六圖）

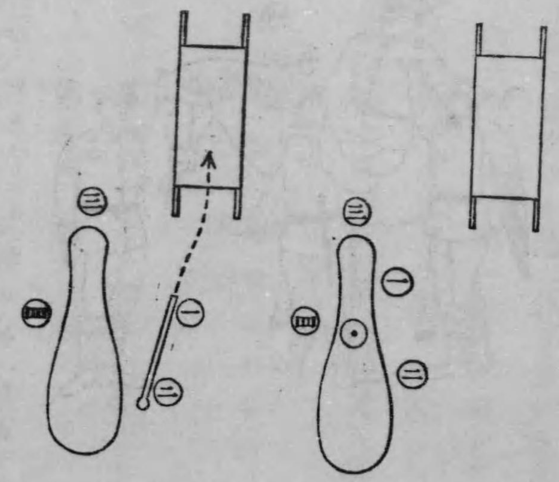
第十四章　馬ヨリ卸シ方

第一〇七　乘馬者負傷シテ猶馬上ニアルコトヲ得ルトキハ馬ノ口ヲ取リ牽キ行クヘシ患者ノ武器、裝具ハ擔架卒之ヲ携行ス

第一〇八　患者ヲ馬ヨリ卸スニハ三番ハ馬ノ口ヲ取リ四番ハ下馬ノ障トナルヘキ裝具等ヲ除ク若シ馬不穩ナルトキハ四番ハ馬ノ左ノ前脚ヲ擡ケ居ルヘシ一番二番ハ擔架ヲ馬ノ前方ニテ馬ノ體ト竝行ニ患者ヲ卸ス側ニ置ク（第一七圖甲）

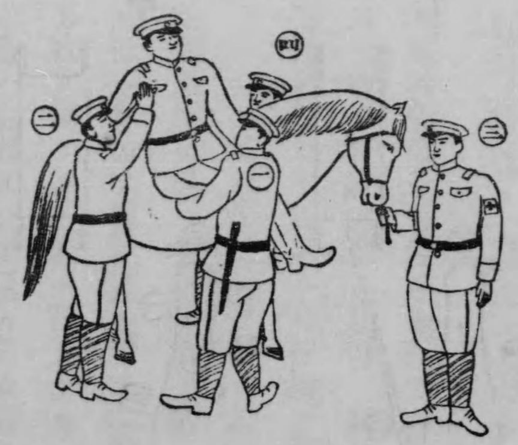
第一〇九　下肢ヲ傷ケタル者ニ在リテハ一番二番ハ創アル側ヨリ近寄リ二番ハ患者ヲシテ己ノ頸及肩ヲ抱カシメ兩手ニテ患者ノ胴ヲ抱キ一番ハ創アル下肢ヲ持チ次ニ創ナキ下肢ハ患者ヲシテ鞍ヲ越サシメテ之ヲ持チ徐カニ卸シテ擔架ニ載ス（第一七圖乙、丙）

第一七圖



第一七圖

丙



第一一〇 上肢ヲ傷ケタル者ニ在リテハ患者ヲシテ創ナキ手ニテ創アル上肢ヲ支ヘシメ第一〇九ニ準シ二番ハ患者ノ胴ヲ抱キ一番ハ下肢ヲ持チテ患者ヲ卸ス

第一一一 下馬ニ限ラス總テ三人伍、二人伍ニテ出來サル動作ハ他ノ擔伍ト共同シテ之ニ當ルヘシ

第十五章　擔架ニ載セ方

第一一二、患者ヲ擔架ニ載スル動作ハ總テ一番ノ號令ニ依ル

第一一三 四人ニテ患者ヲ擔架ニ載スルニハ患者ノ左側若ハ右側ニ於テ患者ノ足ノ方ヲ先頭トシテ擔伍ヲ止メ擔架ヲ患者ニ

近ク竝置シ

掛レ

ノ號令ニテ二番ハ患者ノ頭ノ方ニ寄リ片膝ヲ地ニ著ケ兩手ヲ患者ノ後ヨリ腋ノ下ニ送リ掌ヲ胸ニ當テ一番ハ患者ノ下肢ヲ持チ三番ハ患者ノ胴ヲ持チ二番三番ハ「宜シ」ノ相圖ヲ爲シ

擧ケ

ノ號令ニテ一齊ニ徐カニ患者ヲ擧ク此ノ時四番ハ手早ク擔架ヲ患者ノ下ニ送リ三番ト向ヒ合ヒテ患者ノ胴ヲ持ツ次テ

置ケ

ノ號令ニテ一齊ニ徐カニ擔架ノ上ニ置ク（第一八圖）

第一八圖

患者ヲ擔架ニ載スルニハ擔架ヲ患者ノ側ニ置クヲ例トスト雖地形ニ從ヒ患者ノ頭若ハ足ノ方ニ置クコトヲ得

第一一四　三人ニテ患者ヲ擔架ニ載スルトキ一番二番ノ動作ハ第一一三ニ同シ三番ハ手早ク擔架ヲ患者ノ下ニ送リタル後一番二番ヲ助ケ患者ノ胴ヲ持チ擔架ノ上ニ置ク

第一一五　二人ニテ患者ヲ擔架ニ載スルニハ先ツ擔架ヲ患者ニ接シテ置キ二番ハ患者ノ上半身一番ハ其ノ下半身ヲ持チテ擔架ノ上ニ置ク

第一一六　患者ハ其ノ顏貌ノ監視ニ便ナル如ク足ノ方ヲ前ニシテ擔架ノ上ニ置クヘシ被服ノ窮屈ナル處ハ之ヲ緩クシ背囊等ニ枕セシム

患者ハ殊ニ寒氣ニ堪ヘ難キヲ以テ寒時ニハ外套等ヲ以テ能ク身體ヲ蔽ヒ殊ニ手足ノ凍エサルヤウ注意スヘシ

第一一七　患者ハ仰臥セシムルヲ例トシ其ノ創及容體ニ依リテ特別ナル位置ニ臥セシムルコトハ第五〇及第五一ニ見ユ又創アル部ヲ下ニシテ臥セシムルコトハ成ルヘク之ヲ避クヘシ已ムヲ得サルトキハ被服藁束ノ類ヲ創ノ周圍ニ挾ミテ壓迫ヲ防クヘシ骨折アル者ニハ動搖ヲ防ク爲被服藁束ノ類ヲ挾ミテ其ノ部ヲ固定スヘシ

第一一八　患者ヲ擔架ノ上ニ置キ終リタルトキハ帶紐ヲ裝ヒ各卒其ノ分擔ノ位置ニ復ス

第一一九　患者ヲ擔架ヨリ卸ストキハ載スルトキノ動作ニ準ス

ヘシ

第十六章　擔架運搬

第一二〇　患者ヲ載セタル擔架ノ動作ハ總テ一番ノ號令ニ依ル

第一二一　患者ヲ載セタル擔架ヲ擧クルニハ負紐右(左)肩ト告諭シタル後

擧ケ用意

ノ號令ニテ第六七ノ豫令ノ動作ヲナシ用意整ヒタルトキハ二番ハ「宜シ」ノ相圖ヲナシ次テ

擧ケ

ノ號令ニテ各卒一齊ニ徐カニ起ツ

第一二二　患者ヲ載セタル擔伍ノ行進ハ

前へ

ノ號令ニテ一番ハ左脚ヨリ二番ハ右脚ヨリ歩ミ始ム歩幅ハ餘リ廣カラサルヲ可トシ膝ハ少シク屈メ上體ノ動搖ヲ調節スルヲ可トス

第一二三　四番(三人伍ニアリテハ三番)ハ一番二番ノ歩調ニ留意シ要スルトキハ注意ヲ與フ

第一二四　一番ハ斷エス道路ノ情況ニ留意シ二番ニ注意ヲ與フ

第一二五　運搬中二番四番(三人伍ニアリテハ二番三番)ハ始終

患者ノ顏貌ニ注意シ若シ異狀アルトキハ一番ニ告ケテ擔架ヲ止メ適宜ノ處置ヲナス

第一二六 行進中停止ヲ要スルトキハ

止レ

ノ號令ニテ各卒一齊ニ停止ス

第一二七 患者ヲ載セタル擔架ヲ置クニハ「止レ」ノ號令ニテ停止シ

置ケ

ノ號令ニテ各卒同時ニ徐カニ右膝ヲ地ニ著ケテ擔架ヲ置キ一番二番ハ負紐ヲ脫シ各卒一齊ニ起チテ持場ニ復ス

第一二八 運搬長途ニ亘ルトキハ擔架ヲ肩ニ擔フコトヲ得

擔架ヲ肩ニ擔フニハ「止レ」ノ號令ニテ停止シ「置ケ」ノ號令ニテ擔架ヲ置キ負紐ヲ脫シタル後

擔ヘ用意

ノ號令ニテ一番二番ハ擔架ノ兩柄ノ間ニ在リテ兩手ヲ以テ右柄ヲ握リ三番四番ハ兩手ヲ以テ左柄ヲ握ル次ニ

擧ケ

ノ號令ニテ徐カニ一齊ニ起チ

擔ヘ

ノ號令ニテ各卒一齊ニ徐カニ擔架ヲ擧ケ右肩ニ擔フ

第一二九　肩ニ擔ヒタル擔架ヲ置クニハ「止レ」ノ號令ニテ停止シ

置ケ用意

ノ號令ニテ各卒兩手ヲ柄ニ掛ケ

提ケ

ノ號令ニテ一齊ニ徐カニ擔架ヲ肩ヨリ卸シ兩手ニテ提ク次ニ

置ケ

ノ號令ニテ一齊ニ徐カニ右膝ヲ地ニ著ケ擔架ヲ置ク

第一三〇　擔架ヲ擔ヒタル肩ヲ替フルニハ擔架ヲ置キタル後三番四番兩柄ノ間ニ入リ第一二八ニ準シテ擔フヘシ

第十七章　交代

第一三一　患者ヲ載セタル擔架ヲ遠ク運搬スルトキハ疲勞ヲ減スル爲各卒時時交代ヲ爲ス

交代ヲ爲スニハ一番ノ號令ニテ擔架ヲ置キ次テ

交代

ノ號令ニテ四人伍ニ在リテハ三番四番ハ一番二番ノ位置ニ代ルヘシ

交代ノ後ハ各卒新ニ就キタル位置ノ番號トナル

次ニ一番ノ號令ニテ擔架ヲ擧ク

三人伍ニ在リテハ三番ハ交互ニ一番二番ノ位置ヲ交代ス
二人伍ニ在リテハ一番二番相互ニ交代ス

第十八章　障碍物ノ越シ方

第一三二　障碍物ヲ越ス動作ハ總テ一番ノ號令ニ依ル

第一三三　四人伍ニテ地面ヨリ高キ障碍物ヲ越スニ二法アリ

甲　石垣　土堤ノ如キ擔架ノ柄ヲ托シ得ヘキ障碍物ニ在リテハ之ニ近ツキテ擔架ヲ置キ

掛　レ

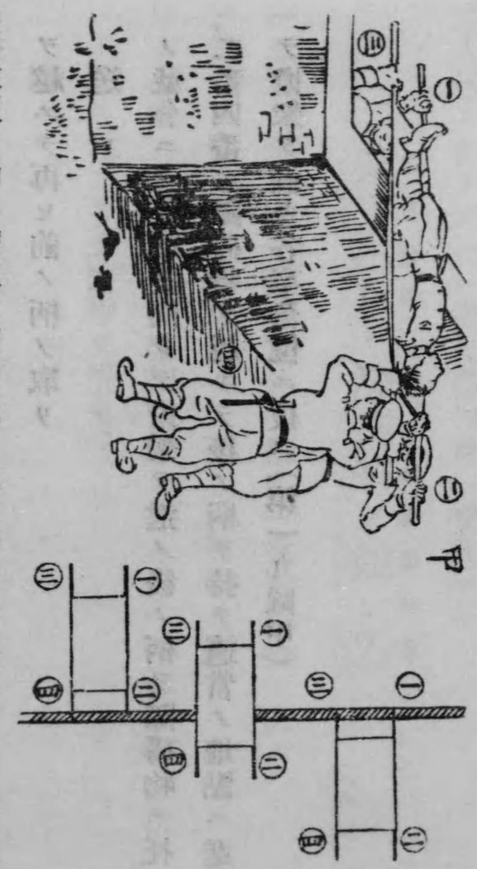
ノ號令ニテ一番二番ハ擔架ノ柄ノ外ニ出テ各卒擔架ノ柄ヲ

握リテ進ミ一番三番ハ前ノ柄ヲ障碍物ニ托シ直チニ障碍物ヲ越エテ再ヒ前ノ柄ヲ取リ

送　レ

ノ號令ニテ各卒共同シテ擔架ヲ進メ後ノ柄ヲ障碍物ニ托シ二番四番モ障碍物ヲ越エテ後ノ柄ヲ持チ適當ノ地點ニ進ミテ擔架ヲ置キ各卒舊位ニ復ス（第一九圖甲）

第一九圖



生垣ノ如キ擔架ノ柄ヲ托シ難キ障碍物ニ在リテハ擔架ヲ

置キ負紐ヲ脫シタル後

掛　レ

ノ號令ニテ一番三番ハ前ノ柄ヲ持チ二番ハ後ノ柄ヲ持チ

擧　ケ

ノ號令ニテ擔架ヲ擧ケ

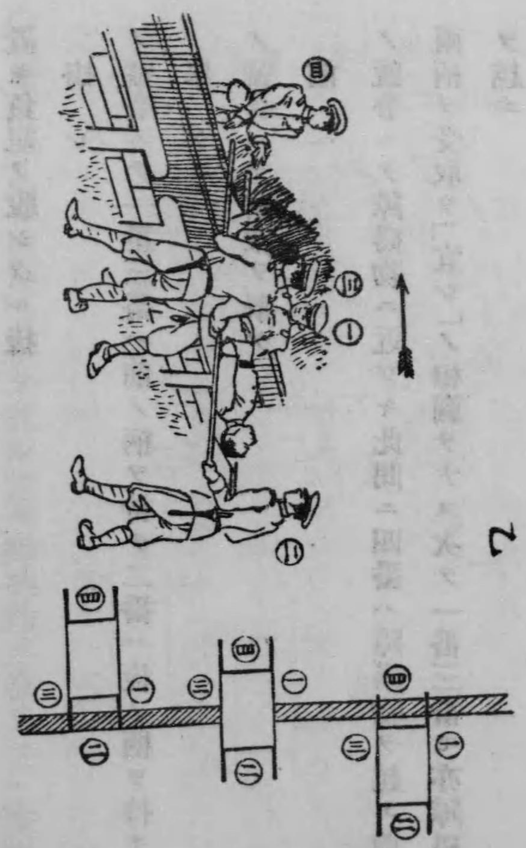
前　へ

ノ號令ニテ障碍物ニ近ツキ此間ニ四番ハ障碍物ヲ越エ前ノ兩柄ヲ受取リ「宜シ」ノ相圖ヲナス次テ一番三番モ亦障碍物ヲ越エ

送　レ

第一九圖

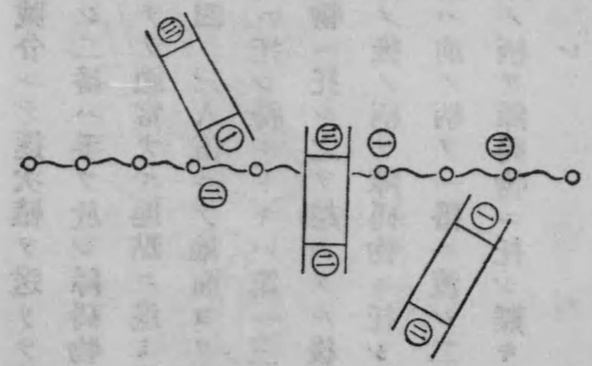
乙



ノ號令ニテ逐次轅ヲ送リテ後ノ兩柄ヲ持チ「宜シ」ノ相圖ヲ爲シ二番ハ手ヲ放シ障碍物ヲ越エテ四番ヲ助ケ各卒各柄ヲ持チテ適當ナル地點ニ進ミ擔架ヲ置ク(第一九圖乙)

第一三四 三人伍ニテ地面ヨリ高キ障碍物ヲ越ユルニ擔架ノ柄ヲ之ニ托シ得ルトキハ第一三三甲ニ準シ一番三番ハ前ノ柄ヲ障碍物ニ托シ之ヲ越エタル後前ノ柄ヲ持チ各卒共同シテ擔架ヲ進メ後ノ柄ヲ障碍物ニ托シ二番ノ障碍物ヲ越ユルト同時ニ三番ハ前ノ柄ヲ一番ニ渡シ二番ト共ニ後ノ柄ヲ持ツ擔架ノ柄ヲ障碍物ニ托シ難キトキハ先ツ擔架ヲ置キ掛レ

第二〇圖



ノ號令ニテ三番ハ障碍物ヲ越エ一番二番ハ擔架ヲ斜ノ方向ニ向ケ一番ハ先ツ一方ノ柄ヲ三番ニ渡シテ柄ノ外ニ出テ次テ他ノ柄ヲ渡シテ障碍物ヲ越エ各卒共同シテ擔架ヲ進メタル後更ニ擔架ヲ斜ニシ一番ハ先ツ一方ノ後ノ柄ヲ持チテ兩柄ノ間ニ入リ次テ他ノ柄ヲ持ツ（第

二〇圖）

第一三五 二人伍ニテ地面ヨリ高キ障碍物ヲ越スニハ他ノ擔伍ノ助ヲ受クルヲ例トス但シ場合ニ依リ一番ハ前ノ柄ヲ障碍物ニ托シ置キ之ヲ越エ其ノ柄ヲ持チ共同シテ擔架ヲ進メ二番ハ後ノ柄ヲ障碍物ニ托シ之ヲ越エテ其ノ柄ヲ取ル

第一三六 四人伍ニテ溝ヲ越ユルニハ擔架ヲ前岸ニ接シテ置キ掛レ

ノ號令ニテ一番ハ溝ノ對岸ニ移リ三番四番ハ溝ノ兩岸ニ跨リ又ハ溝ノ中ニ入リ各柄ヲ取リ送レ

ノ號令ニテ擔架ヲ進メテ前ノ柄ヲ一番ニ渡シ三番四番ハ逐次

第一圖

轅ヲ送リ後ノ柄ヲ持チ之ヲ對岸ニ置キ各卒悉ク溝ヲ越エタル後四人ニテ前後ノ柄ヲ持チ適當ノ地點ニ至リ擔架ヲ置キ舊位ニ復ス(第二一圖)

第一三七 三人伍ニテ溝ヲ越ユルニハ先ツ擔架ヲ前岸ニ接シテ置キ一番三番ハ前法ノ如キ動作ヲナシテ前柄ヲ對岸ニ托シ二番ハ速ニ溝ヲ越エテ前柄ヲ取リ一番三番ハ前法ノ如キ動作ヲナシテ擔架ヲ越サシム

第一三八 二人伍ニテ溝ヲ越ユルニハ他ノ擔伍ノ助ヲ受クルヲ例トス但シ溝小ナルトキハ擔架ヲ前岸ニ接シテ置キ兩側ヨリ轅ヲ持チテ前柄ヲ對岸ニ渡シ置キ一番溝ヲ越エ二人共ニ舊位

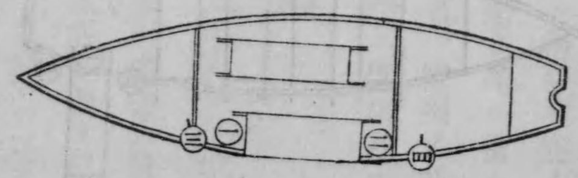
ニ復シテ柄ヲ持チ擔架ヲ進メテ對岸ニ渡シタル後二番溝ヲ越ユ

第一三九 坂若ハ階段ヲ運搬スルニハ擔架ヲ水平ナラシムルヲ要ス登ルトキハ後柄ヲ取ル者ハ兩臂ヲ屈シ若ハ柄ヲ肩ニ擔フ、下ルトキハ之ニ反ス

第一四〇 坂急ニシテ水平ヲ保チ難キトキハ患者ノ頭ノ下ラサルヤウ登ルトキハ頭ヲ先ニシ下ルトキハ足ヲ前ニス但シ下肢ニ骨折アル者ハ足ノ下ラサルヤウ之ト反對ニスルヲ可トス

第十九章 渡船ニ載セ方

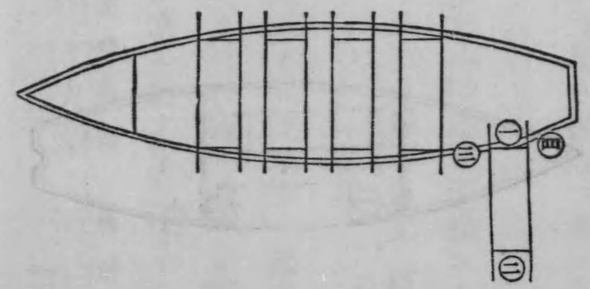
第二二圖



第一四一 渡船ニ患者ヲ載スルニハ船ヲ横ニ岸ニ著ケ三番四番ハ第二二圖ノ位置ニ在リテ船ヲ岸ニ留メ一番二番ハ船ノ縱軸ニ竝行シテ側歩ニテ徐カニ乘リ移ルモノトス

第一四二 水流急ナラスシテ風波ナキトキニ限リ第二三圖ノ如ク船ノ縱軸ニ

第二三圖



直角ニ擔架ヲ兩舷上ニ置クコトヲ得此ノ場合ニハ三番四番ハ船ヲ岸ニ留メ一番二番ハ擔架ノ水平ヲ保チツツ逐次乘船スルモノトス

第一四三 船ヨリ卸ストキノ動作ハ載スルトキノ反對ニ行フヘシ

第一四四 渡船ニ載セ又ハ

卸ストキハ爲シ得レハ他ノ擔伍ト共同シテ動作スルモノトス此ノ場合ニハ船ヲ岸ニ留ムル者、陸上ノ運搬ニ從フ者、船內ノ運搬ニ從フ者、擔架ノ載セ卸シヲ助クル者ヲ別チ其ノ號令及動作ハ障碍物ノ越シ方ニ準スヘシ

第五編

第二十章　吊擔架

第一四五 吊擔架ハ擔架ノ負紐ヲ除キタルモノニ吊金(ツリガネ)二箇、擔棒(ボウ)、日覆(ヒオホヒ)及張金(ハリガネ)各一箇ヲ添ヘタルモノナリ(第二四圖)

第四圖

ソロハ日用藤製令夢

吊金ニハ上端ニ擔棒ヲ通ホス吊輪(ツリワ)アリ其ノ下ニハ關節ニテ連レル二本ノ幹(ミキ)アリ幹ノ下端ハ環(ワ)ヲナシ柄ヲ通ホス又幹ノ下部ニハ關節ニテ連レル枝(エダ)アリ其ノ下ニハ爪(ツメ)アリテ柄ヲ夾ミ幹ヲ固定ス張金ハ弓狀ヲナシ其ノ兩端ヲ床ノ耳囊(ミミブクロ)ニ挿ミ日覆ヲ張ル日覆ハ寒暑風雨ヲ防クノ用ヲナス

第一四六 吊擔架ヲ組立ツルニハ擔架ヲ造リタル後前後ノ柄ニ吊金ノ幹ノ環及枝ノ爪ヲ嵌メ環及爪ノ螺子ヲ緊メ次テ張金ノ兩端ヲ患者ノ頭ノ方ノ耳囊ニ挿ミテ固定シ張紐(ハリヒモ)ヲ床ノ端ニアル蹄(ワナ)係ニ通シテ美如ニテ張リ日覆ヲ被ヒ其ノ裏面ノ紐ヲ轅及張金ニ縛リ著ク次テ吊輪ニ擔棒ヲ內側ヨリ前後ニ通ホス

第一四七　吊擔架ヲ收ムルニハ先ツ擔棒ヲ拔キ、日覆ヲ脫シ、張紐ノ美如ヲ解キテ張金ヲ除キ前後ノ吊金ノ螺子ヲ戾シテ吊金ヲ柄ヨリ外シ次テ擔架ヲ收メ擔棒、日覆、吊金及張金ハ別ニシ擔架ハ一番二番擔棒其ノ他ノ屬具ハ三番四番之ヲ携フルモノトス

第一四八　吊擔架ハ患者車ノ動搖ニ堪ヘ難キ頭蓋、胸、腹ノ臟腑傷キタル者、脊柱、大腿ノ骨折レタル者等重キ患者ヲ搬フニ用ヰラル

第一四九　吊擔架ハ之ヲ組立テスシテ携行シ患者ヲ載セタル擔架ニ屬具ヲ組ミ立テテ吊擔架トナスヲ例トス此ノ場合ニハ携行セル擔架ニ負紐ヲ附シ代品トシテ交付スルモノトス

第二十一章　患者車

其ノ一　構造

第一五〇　患者車ハ車(クルマヤ)及屋形(カタ)ヨリ成ル(第二五圖、第二六圖)

車ハ三八式二輪輜重車ニ同シ

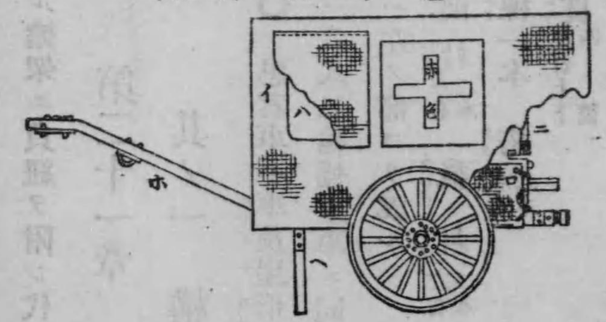
屋形ハ左ノ部ヨリ成ル

一　前柱(マヘハシラ)左右二本　後柱(ウシロハシラ)左右二本　合掌(ガッショウ)前後二組

二　棟(ムネ)一本　桁(ケタ)左右二本

三　貫(ヌキ)左右上下四箇

第二五圖
患車者（外部）

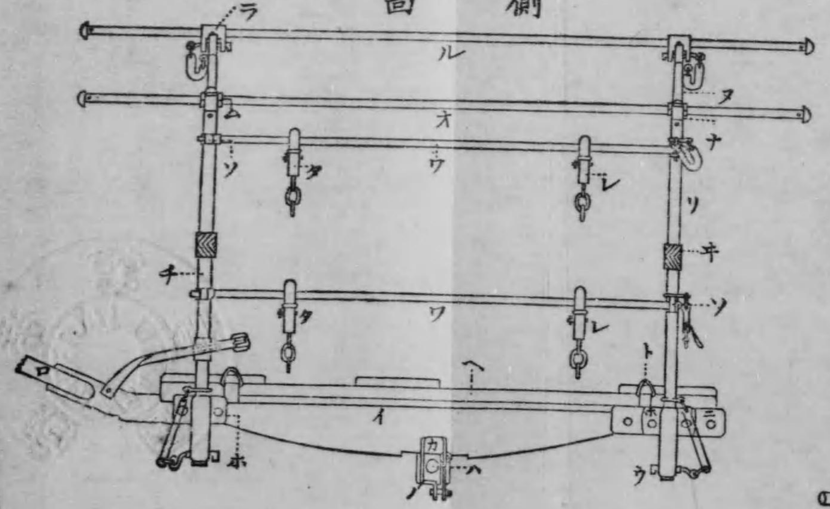


イ 雨覆
ロ 泥除
ハ 窓
ニ 後柱
ホ 轅木
ヘ 支柱木

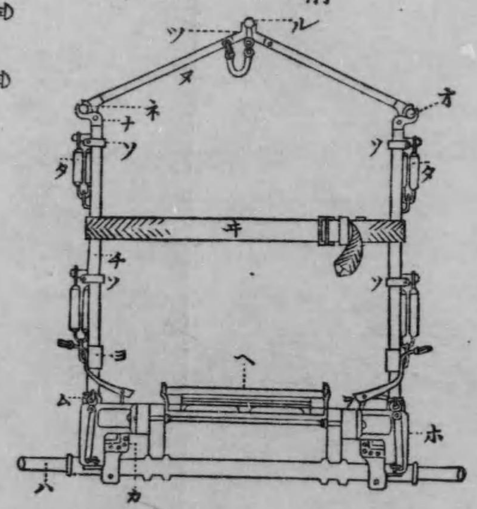
四 柱受鐵（ハシラタテ）左右前後四箇
副木（ソヘギ）左右二箇
五 前釣鉤（マヘツリカギ）左右上下四箇
後釣鉤（ウシロツリカギ）左右上下四箇
六 跪坐臺（コシカケダイ）一箇
七 附屬品

第二六圖
患者車

側面



前面



イ 車轅
ロ 車木
ハ 副木
ニ 軸木
ホ 跪坐臺
ヘ 吊臺
ト 前後鐵
チ 前後柱
リ 前後鐵
ヌ 合掌
ル 桁棟
オ 桁
ワ 貫
カ 銃身止革
ヨ 銃架
タ 前釣鉤
レ 後釣鉤
ソ 貫受
ツ 棟受
ネ 桁受
ナ 桁止
ラ 駐鐵
ム 栓孔
ウ 背鈕
キ 當鐵
ノ 托革
チ 銃把止革

前柱及後柱ハ其ノ上端ニ桁受(ケタウケ)アリ下端ニハ栓孔(センアナ)アリテ栓(セン)ヲ附ク中央ニハ上下二箇所ニ貫受(ヌキウケ)アリ又前柱ノ下部ニハ銃身止革(ジウシントメカハ)ヲ附ケ後柱ノ貫受ニハ上下共ニ栓孔アリテ栓ヲ附ク

合掌ハ關節ニヨリテ柱ノ桁受ニ連リ他端ニハ棟受(ムネウケ)アリ棟受ニハ栓孔アリテ栓ヲ附ク

棟及桁ハ同シ長サニシテ棟ニハ前後二箇所ニ栓孔アル止鐵(トノガネ)アリ

貫ハ棟ヨリ短ク後端ニ栓孔アリ

柱受鐵ハ車臺ノ兩側ニテ前ハ轅接木ト共ニ後ハ副木ト共ニ車臺縱木(タテギ)ニ螺著シ左右ノ副木ハ更ニ鐵桿ニテ連結セラル

釣鉤ハ下端ニ鉤(カギ)アリテ擔架又ハ跪坐臺ノ吊鐶ヲ懸ク前釣鉤ノ上端ニハ滑車アリテ貫ノ上ヲ滑走スル用ヲナス又釣鉤ノ内部ニハ撥條(バネ)アリテ車ノ反動ヲ避クル用ヲナス

跪坐臺ハ三箇ノ腰掛板ト鐵桿ニテ連結セル左右ノ縦木トヨリ成リ四箇ノ吊鐶ト四箇ノ止革トヲ附ク

附屬品ハ銃架(左右二箇)背當(セアテ)(前後二條)泥除(左右二枚)及雨覆一枚ヨリ成ル

銃架ハ車輪ト車臺トノ間ニテ車軸ニ嵌メ螺螺(テフネヂ)ニテ固定ス銃架ニハ銃把止革ヲ附ク

背當ハ一端ニ美如ヲ有スル帶ニシテ跪坐患者ノ背ヲ托スルニ供ス

泥除ハ兩端ニ鳩目及一條ノ紐ヲ有スル幕ナリ

雨覆ハ屋蓋(ヤネ)及前後左右ノ垂布ヨリ成リ各垂布ハ各箇ニ卷キ上クルコトヲ得又左右ノ垂布ニハ前部ニ各一箇ノ窓ヲ有シ垂布ヲ垂レタルトキト雖外部ヨリ患者ヲ監視スルコトヲ得

第一五一　其ノ一　組ミ方及解キ方

一　患者車ヲ組ミ立ツルニハ左ノ順序ニ據ル

二　柱ノ貫受ヲ正シク外方ニ向ケテ柱受鐵ニ立テ栓ヲ挿ス

釣鉤ノ鉤ヲ内方ニ向ケ前釣鉤、後釣鉤ヲ順次貫ニ通シタル後、貫ヲ柱ノ貫受ニ挿ス貫ヲ挿スニハ後端ヲ先ニシ前端ヲ後ニス次ニ後端ノ栓ヲ挿シ革紐ニテ止ム

三　貫ノ裝著終レハ桁ヲ柱ノ桁受ニ載セ次テ合掌ヲ擧ケ頂點ニ於テ互ニ棟受ヲ接合セシメ之ヲ止鐵ニテ夾ム如ク棟ヲ載セ栓ヲ挿シテ屋蓋ヲ形ツクル

四　跪坐臺ハ腰掛板ノ間隔狹キ方ヲ前ニシテ車ノ上ニ置キ止革ニテ車臺縱木ニ縛リ著ク

五　銃架ハ銃把止革ノ美如ヲ外ニシテ車軸ニ著ケ蝶螺ヲ緊メ固定ス

六　背當ハ美如ヲ外ニシ上下貫受ノ中間ニテ一側ノ柱ニ附ケタル後、使用セサルトキハ之ヲ其ノ柱ニ纏ヒ置キ使用スルトキハ他側ノ柱ニ廻シテ美如ニテ止ム

七　泥除ハ紐ノ附キタル部ヲ下ニシ紐ヲ柱受鐵ニ纏ヒ次ニ鳩目ヲ通シツツ柱ニ纏ヒ其ノ端ヲ下ノ貫受ニ縛リ著ケ前後兩柱ノ間ニ張ル

八　雨覆ハ窓ヲ前方ニシテ被ヒ先ツ屋蓋裏面ノ前後ニアル蹄係ニ棟ノ兩端ヲ交互ニ通ホシ以テ裏面ニアル他ノ紐ヲ桁及柱ニ縛リ著ケ次ニ各垂布及窓蓋（マドオホヒ）ヲ各止釦ニテ綴リ合セ終リニ下緣ニ附キタル紐ヲ車臺ニ縛リ著ク

屋蓋及窓ノ上部ニアル止釦ハ垂布及窓蓋ヲ卷キ上クルトキニ用キラル

第一五二　患者車ノ解キ方ハ組立ト反對ノ方法ニ據ル

第一五三 各材料ハ屢〻手入ヲ行ヒ且大切ニ取扱フヘシ歪(ユガミ)又ハ鏽(サビ)ヲ生スルトキハ組ミ解キヲ困難ナラシム

第一五四 患者車ノ組立終レハ各栓ヲ洩レナク檢査シ殊ニ廻ハスヘキ栓ニ注意スヘシ

第二十二章 患者車ニ載セ方

第一五五 患者ヲ載セタル擔架ヲ患者車ニ載スルニハ四人擔伍ナルヲ要ス若シ三人伍、二人伍ナルトキハ他ノ擔伍又ハ看護卒、輸卒ノ助ヲ受ク

第一五六 擔架ヲ患者車ニ載スルニハ上段ヲ先ニシ下段ヲ後ニス卸ストキハ之ニ反ス

行進ニ際シ上段ハ下段ニ比シ動搖強キヲ以テ重キ患者ハ力メテ下段ニ載スルヲ可トス

惡路ノ爲車輛ノ動搖甚シキ場合ニハ下段ノミヲ使用スルコトアリ

第一五七 患者車雨覆ノ垂布ハ寒時又ハ風雨ノ如キ必要アル場合ノ他、側面及後面ヲ卷キ上ケ置クヲ例トス

第一五八 患者ヲ載セタル擔架ヲ患者車ニ載スル前ニハ創ノ狀況ニ應シテ苦痛ナキ位置ニ臥セシメ被服藁束ノ類ヲ挿ミテ創アル部ノ動搖ヲ防キ寒時ニ在リテハ特ニ手足ノ溫保ニ注意ス

ヘシ

患者車ニ載スルニ先チ患者ニ上圍ノ要否ヲ質スヘシ

第一五九　患者ヲ載セ又ハ卸ストキノ動作ハ總テ一番ノ號令ニ依ル

第一六〇　患者車ニハ患者ノ頭ヲ前ニシテ載スルヲ例トス之カ爲擔架ハ患者車ノ後方約一「メートル」ノ所ニ停止シ後向ニ擔架ヲ置ク次テ

載セ用意

ノ號令ニテ四番ハ銃ヲ取リテ車ノ右側ニ至リ銃ノ遊底部ヲ下ニシテ銃把ヲ銃架ニ載セ止革ノ美如ヲ止メ三番ハ右ノ前柱ノ所ニ至リ銃身止革ヲ二回銃身ニ纏ヒテ柱ニ縛リ著ク此ノ間ニ一番二番ハ負紐ノ一端ヲ柄ヨリ外シテ床ノ縁ニ縋ニ置キ二番ハ持場ニ復シテ擔架ニ面シ一番ハ兩柄ノ間ニ在リテ患者車ニ面ス銃ノ固定終レハ三番ハ同側ニ於テ後柱ノ所ニ至リ四番ハ持場ニ復シテ二番ニ面ス次テ

擧ケ

ノ號令ニテ一番ハ兩手ニテ柄ヲ握リ二番四番ハ横鐵ノ前後ニ接シテ轅ヲ握リ一齊ニ擔架ヲ擧ケ二番四番ハ横鐵ノ後ニテ轅ヲ肩ニ擔フ次ニ

前ヘ

ノ號令ニテ柄ヲ車内ニ進メ

懸ケ

ノ號令ニテ三番ハ前釣鉤ヲ吊鐶ニ嵌メ「宜シ」ノ相圖ヲナシ速ニ車ノ左側ニ至リ左ノ鐶ヲ吊リ再ヒ「宜シ」ノ相圖ヲナス二番四番ハ此ノ相圖ニテ逐次其ノ手ヲ放ス次ニ

送レ

ノ號令ニテ三番ハ一番ト共ニ後ノ柄ヲ持チ徐カニ水平ニ擔架ヲ押シ進メ二番四番ハ後釣鉤ヲ吊鐶ニ嵌メ「宜シ」ノ相圖ヲナシ動作ヲ終ル

第一六一 下段ニ患者ヲ載スル動作ハ概ネ前ニ同シ但シ銃ハ三番四番左ノ銃架ニ固定シ又「擧ケ」ノ號令ニテ二番四番轅ヲ肩ニ擔フコトナシ

第一六二 患者車ヨリ患者ヲ載セタル擔架ヲ卸スニハ卸セ用意

ノ號令ニテ一番ハ左ノ三番ハ右ノ柄ヲ持チ

外セ

ノ號令ニテ二番ハ左ノ四番ハ右ノ後釣鉤ヲ外シ「宜シ」ノ相圖ヲナス次ニ

引ケ

ノ號令ニテ擔架ヲ引キ出シ再ヒ

外セ

ノ號令ニテ一番ハ後ノ兩柄ヲ持チ二番四番ハ横鐵ノ後ニテ轅ヲ肩ニ擔ヒ(下段ノトキハ兩手ニテ轅ヲ持チ)三番ハ後柱ノ所ニ至リ先ツ左ノ次ニ右ノ釣鉤ヲ外シ「宜シ」ノ相圖ヲナス次テ

後ヘ

ノ號令ニテ其ノ儘後退シ適宜ノ地點ニ至リ「置ケ」ノ號令ニテ擔架ヲ置キ三番四番ハ銃ヲ車ヨリ解キテ擔架ニ載ス

第一六三　跪坐臺ヲ用ヰテ載スル患者ハ手ヲ以テ自ラ體ヲ支ヘ得ヘキ者ニ限ル

第一六四　跪坐臺ヲ用ヰルニハ先ツ之ヲ釣鉤ニ吊リ前ノ背當ヲ張リ次テ患者ヲ助ケテ前ノ腰掛ヨリ順次ニ乗ラシメ乗リ終リタルトキハ後ノ背當ヲ張ル患者ハ前及中ノ者後ニ面シ後ノ者ハ前ニ面シテ中ノ者ト相對ス

銃ハ銃架ニ縛リタル外ハ患者ニ持タシメ又ハ適宜他ノ武器裝具ト共ニ車内ニ置ク

第二十三章　患者車ノ行進

第一六五　患者車ニ患者ヲ載セ終リタルトキハ試ニ若干距離ヲ行進シ患者ニ苦痛ノ有無ヲ質シ然ル後發進スルモノトス

第一六六　患者ヲ載セタル患者車ハ力メテ平坦ナル道路ヲ撰ヒ

常歩ヲ以テ行進シ若シ道路不良ナルトキハ歩度ヲ縮メテ急劇ナル動搖ヲ避クヘシ

第一六七　行進長途ニ亘ルトキハ患者ノ狀況ニ應シテ休憩ヲ行フ又途中救護ノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ車輛ヲ列外ニ出シテ所要ノ手當ヲナス

第一六八　總テ患者ノ保護ニハ護送者之ニ當リ護送者ナキトキハ車輛ノ指揮者又ハ輸卒爲シ得ル限リノ處置ヲナス

第一六九　以上ノ他患者車ノ運動ニ關シテハ輜重兵操典ヲ參照スヘシ

第二十四章　應用車輛

第一七〇　場合ニヨリ輜重ノ空車輛ニテ患者ヲ輸送スルコトアリ又地方徵發ノ自動車、牛馬車、手車等ニテ患者ヲ運搬スルコトアリ

第一七一　應用車輛ニテ患者ヲ輸送スル場合ニハ爲シ得レハ藁、高粱桿、莚、蓆等ノ敷物ヲ準備スルヲ要ス

第一七二　臥位患者ハ藁布團、藁等ヲ敷キタル後其ノ上ニ臥セシメ若ハ擔架ニ載セタル儘車床上ニ置キ擔架ト車床トヲ縛リテ固定スヘシ

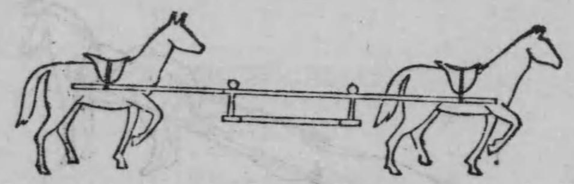
第一七三 擔架ヲ用ヰスシテ患者ヲ載スルニハ車ノ後方ニ擔架ヲ置キ四番先ツ車ニ乘リ次ニ他ノ擔架卒ハ手運ヒニテ患者ヲ擔架ヨリ卸シ四番ト共ニ車床ニ載セ次テ三番ハ車床ニ乘リ四番ト共ニ患者ヲ適當ナル位置ニ臥セシム

牛馬車ナルトキハ此ノ動作ノ間輸卒又ハ人夫ヲシテ牛馬ノ口ヲ取リテ車ヲ動カサラシメ手車ナルトキハ三番轅ヲ持チテ車ヲ固定ス

卸ストキハ載スルトキノ動作ニ準ス

第一七四 寒暑風雨ノトキハ適宜ノ應用材料ヲ用ヰテ車蓋ヲ設クルヲ要ス

第二七圖

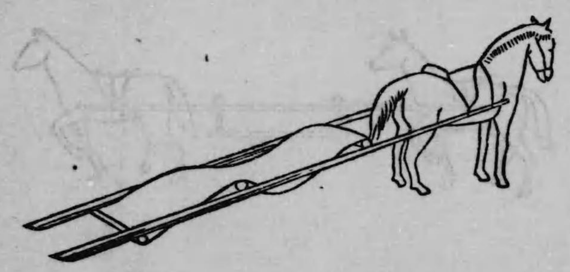


第二十五章　馬ノ應用

第一七五 馬二頭ヲ用ヰテ擔架ヲ運搬スルニハ少クモ六「メートル」ノ長サヲ有スル丈夫ナル二本ノ棒ヲ鐙革ニ縛リテ固定シ之ニ二本ノ横木ヲ結ヒ著ケ擔架ヲ懸ク（第二七圖）

擔架ト後方ノ馬トノ間ニハ充分ナル距離ヲ置クヘシ馬ニ地上ヲ見スル要アレハナリ

第二八圖



第一七六　氷上ニテハ患者ヲ橇ニ載セテ馬ニ牽カシメ若ハ第二八圖ノ如キ橇擔架ヲ用ヒルコトアリ

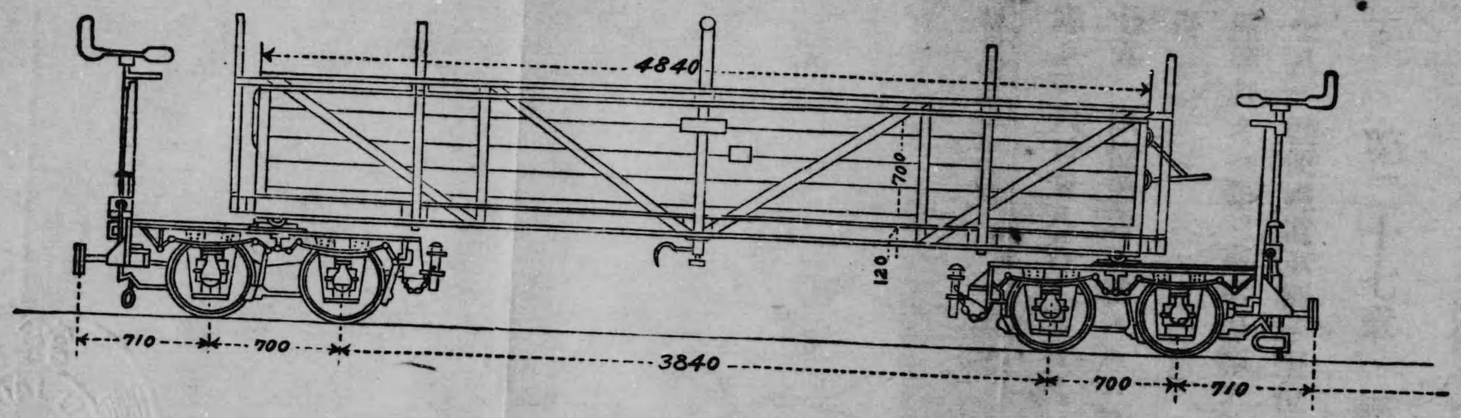
此等ノ裝置ヲ用ヒルニハ豫メ空擔架ヲ懸ケ引キ廻シ馬ノ靜ニ行クヤ否ヤヲ檢スルヲ要ス

第六編

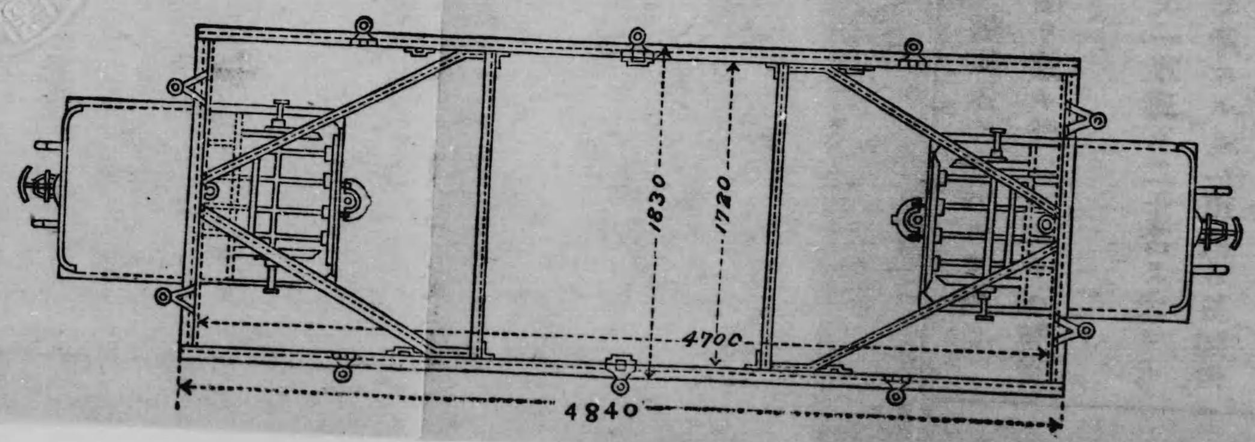
第二十六章　輕便鐵道車ノ構造

第二九圖

(組立テタル車輛)



(頭板側板及床板ヲ除キタル車框)



第一七七 輕便鐵道車輛ハ兩臺車、鐵製車框及木製車箱(頭板、側板各二枚及床板ヲ以テ組立ツ)ヨリ成ル

車ノ前後ニハ各二本兩側ニハ各三本ノ支棍アリ(第二九圖)

第二十七章　輕便鐵道車ノ設備

第一七八 輕便鐵道車輛ニ坐位患者ヲ載スルニハ車內ニ長腰掛ヲ据ヱ若クハ藁、高粱稈等ヲ敷キテ一車概ネ二十名ヲ容ルルヲ得

第一七九 臥位患者ヲ載スルニ藁布團ヲ敷キ詰ムルトキハ輕重ニ應シテ六乃至八名ノ患者及一名ノ護送者ヲ容ルルヲ得

藁布團ニ代フルニ藁又ハ高粱稈ヲ敷クトキハ十分厚クシ蓆、莚、毛布等ヲ以テ覆フヘシ

場合ニ依リ患者ヲ擔架ニ載セタル儘車輛ニ載スルコトアリ

第一八〇　車輛ニ屋蓋ヲ造ルニハ適宜ノ裝置ヲナシ其ノ上ニ雨覆若クハ繼キ合セタル携帶天幕ヲ被フモノトス

第二十八章　輕便鐵道車輛ニ載セ方

第一八一　輕便鐵道車輛ニ患者ヲ載セタル擔架ヲ載スルニハ他ノ擔伍ノ補助ヲ受ケ先ツ二人車内ニ乘リ込ミタル後載スル側ノ支棍ヲ取リ除キ擔架ハ四人伍ニテ肩ニ擔ヒ患者ノ頭ヲ前ニシ車輛ニ竝行シテ之ニ近ツキ一番ノ「擧ケ」ノ號令ニテ兩手ヲ以テ擔架ヲ擡ケ車内ノ二人ハ確實ニ前後ノ柄ヲ持チタル後「宜シ」ノ相圖ヲナシ之ヲ受取リテ床板上ニ置ク擔架ヲ置ク順序ハ載スル側ノ反對側ヲ先ニシ載スル側ヲ後ニス

第一八二　床板上ニ藁布團ヲ敷キテ臥位患者ヲ載スルニハ四人車内ニ乘リ込ミタル後擔架ハ四人伍ニテ第一七〇ノ如ク動作シ車内ノ二人ハ擔架ヲ受取リテ之ヲ車内ニ置キ他ノ二人ハ患者ヲ擔架ヨリ下シテ藁布團ノ上ニ置ク

第一八三　患者ヲ卸ストキノ動作ハ載スルトキノ反對ニ行フヘシ

第二十九章　手押輕便鐵道車

第一八四　手押輕便鐵道臺車ニテ坐位患者ヲ運搬スルニ下肢ヲ伸ハシテ坐セシムルトキハ前後ヨリ相對シテ二名ヲ載スルコトヲ得下肢ヲ伸ハスヲ要セサル者ハ前後各二名ヲ互ニ背ヲ接シテ乘ラシム患者ハ各支棍ヲ持チテ身ヲ支ヘ支棍ナキトキハ之ニ代ハルヘキ木桿ヲ臺車ニ堅ク結ヒ著ケテ之ヲ持タシム

第一八五　臥位患者ヲ手押輕便鐵道車ニ載スルハ已ムヲ得サルトキニ限ル此ノ場合ニハ縱ニ藁布團一枚ヲ敷キ又ハ藁、高粱稈等ヲ敷キテ其ノ上ニ臥セシメ轉落ヲ防ク爲適宜ノ裝置ヲナ

スヘシ

第一八六　日覆、雨覆ヲ要スルトキハ適宜ノ裝置ヲナシ携帶天幕等ヲ纏フヘシ

第一八七　車ノ行進ニハ嚴ニ惰力ノ應用ヲ避クヘシ

第七編

第三十章　病院列車、患者列車

第一八八　病院列車トハ重症患者、傳染病患者、精神病患者ヲ輸送スル爲特ニ設ケタル列車ニシテ管理車及病室車ヨリ成リ管理車ニハ事務室、庖厨室ヲ、病室車ニハ病室、手術室、消毒室及材料室ヲ備フ

第一八九　患者列車トハ普通ノ列車ニ一時ノ設備ヲ施シテ患者ノ輸送ニ用ヰルモノヲ云フ

第一九〇　坐位患者ヲ患者列車ニテ輸送スルニハ普通ノ客車ニ載セ又ハ有蓋貨車ニ藁布團其ノ他ノ敷物ヲ敷キテ載スルヲ例トス

臥位患者ヲ有蓋貨車ニテ輸送スルニハ藁布團及毛布ヲ敷キテ其ノ上ニ臥セシメ又ハ藁、高粱稈等ヲ敷キタル上ニ擔架ヲ載セタル儘之ヲ置ク

場合ニ依リ有蓋貨車ニ特別ナル發條裝置ヲ設ケテ患者ヲ載セタル擔架ヲ二段ニ吊リ若ハ下段ニ藁布團ヲ用ヰ上段ニ擔架ヲ吊ルコトアリ

第三十一章　列車ニ載セ方

第一九一　臥位患者ハ車室内ニ在リテハ頭ヲ前ニシテ臥セシムルヲ例トス但シ車室ノ廣狹及創ノ部位ニ依リ横ニ若ハ反對ニ臥セシムルコトアリ

第一九二　列車ニ載セ又ハ卸ストキノ動作ハ總テ一番ノ號令ニ依ル

第一九三　擔架ニ載セタル患者ヲ有蓋貨車ニ載スルニハ通例他ノ擔伍ノ補助ヲ受ケ先ツ二人車内ニ乘リ込ミタル後擔架ヲ列

車ニ直角ニ置キ

載セ用意

ノ號令ニテ一番三番ハ横鐵ノ所ニテ相對シテ轅ヲ持チ二番四番ハ後ノ柄ヲ持チ

擧ケ

ノ號令ニテ一齊ニ徐カニ床板ノ高サマテ擔架ヲ擧ケ

前ヘ

ノ號令ニテ前進シテ前柄ヲ車内ニ進メ車内ノ二人ハ之ヲ受ケ取リタル後「宜シ」ノ相圖ヲナシ

送レ

ノ號令ニテ斜ニ擔架ヲ進メテ一旦床板ニ置キタル後車内ノ二人ニテ適宜ノ位置ニ搬フ

第一九四　患者ヲ擔架ヨリ卸シテ車室内ニ臥セシムル場合ニモ先ツ擔架ノ儘車室内ニ搬ヒ然ル後擔架ヨリ卸シテ臥床ニ臥セシムルヲ例トス

第一九五　貫通式客車ニ患者ヲ載スルニハ特別ナル擔架ヲ用ヰルコトアリ

第八編

第三十二章　病院船、患者輸送船

第一九六　病院船トハ重症患者、傳染病患者、精神病患者ヲ輸送スル爲特ニ設ケタル汽船ニシテ船内ニハ事務室、病室、手術室、屍室、藥室、消毒室等アリ

第一九七　患者輸送船トハ軍隊輸送船ニ一時ノ設備ヲ施シテ輕キ患者ノ輸送ニ用ヰルモノヲ云フ

第一九八　患者ハ病院船ニ在リテハ患者專用ノ臥床ニ患者輸送船ニ在リテハ普通客室ノ外軍隊輸送用寢棚ニ收容スルモノトス

第二十三章　汽船ニ載セ方

第一九九　患者ノ載セ卸シニハ棧橋若ハ艀舟ニ由ルモノトス

第二〇〇　棧橋若ハ艀舟ヨリ汽船ニ載スルニハ歩行シ得ル患者ハ舷梯ヨリ乘ラシメ擔架ニ載セタル患者ハ舷門ヨリ載セ若ハ起重機ヲ用ヰルモノトス

第二〇一　患者ヲ載セタル擔架ヲ舷門ヨリ載スル動作ハ障碍物通過ニ準シテ行ヒ他ノ擔伍又ハ仲仕ノ助ヲ受クルヲ例トス

第二〇二　患者ヲ載セタル擔架ヲ起重機ニ依リ運搬スルニハ特別ナル擔架ヲ用ヰ若ハ普通ノ擔架ニ補助材料ヲ裝シテ其ノ滑轉傾斜動搖等ヲ防クモノトス

第二〇三　艀舟ニハ團平船、馬船等アリ團平船ニハ擔架ニ載セ

タル患者九人ヲ馬船ニハ六人ヲ載スルコトヲ得

患者ヲ載セタル擔架ハ團平船ニアリテハ船ノ縱軸ニ直角ニ置キ馬船ニハ船ノ縱軸ニ竝行シテ置クモノトス

第二〇四 艀舟ニ載スル動作ハ渡船ニ載スル動作ニ準スヘシ

擔架ノ配置ハ舳及艫ヲ先ニシ中央ヲ後ニス

第二〇五 汽船又ハ艀舟ヨリ卸ストキノ動作ハ載スルトキニ準スヘシ

第九編

第三十四章　急造作業

第二〇六 急造作業ハ迅速ニシテ確實ナルヲ要ス

急造擔架ヲ作リタルトキハ必ス體量大ナル健康兵ヲ載スルニ耐フルコトヲ慥ムルヲ要ス

第二〇七 急造品ヲ作ル爲猥リニ武器ヲ應用スヘカラス

第三十五章　工具

第二〇八 衞生隊醫极中ニ修理囊アリ鋸、鉈、螺旋廻、鑿、鉋、尺度、錐、釘拔附鐵槌、釘等ヲ收ム

隊繃帶所ニアリテハ小行李器具中ノ小斧、鋸、鉋等ヲ應用シ得ルコトアリ

第二〇九　衞生隊醫材中ニハ麻二枚糸、麻細糸及麻細引、隊醫材中ニハ麻二枚糸アリ其ノ他ノ材料ハ便宜徵集スヘシ其ノ種類概ネ左ノ如シ

(イ) 木竹桿、板、戸板等
(ロ) 鐵葉板、金屬線、釘、鎹、螺旋等
(ハ) 俵、袋、莚、蓆、「ヅック」等
(ニ) 繩、麻、藁、高粱稈等

第三十六章　繩ノ使ヒ方

第二一〇　急造作業ニ著手スルニハ豫メ繩ノ使ヒ方ニ練熟スルヲ要ス

第二一一　繩ヲ繼キ合スニハ左ノ結ヒ方アリ

甲　拱結（コマムスビ）　最モ普通ニ用ヰラル（第三〇圖）

乙　織工結（ハタオリムスビ）　細キ糸ニ用ヰテ解ケ難シ（第三一圖）

丙　引結（ヒキムスビ）　天蠶糸（テグス）、蔓ノ如キ滑リ解ケ易キモノニ用ヰラル（第三二圖）

第三〇圖

(一)

(二)

第三一圖

第三二圖

第二一二 結ヒ目ヲ作ラスシテ繩ヲ繼キ合スニハ甲ノ繩ノ端ヨリ凡六七寸ノ所ニ乙ノ繩ノ端ヲ挾ミタル後二條ノ繩ヲ綯ヒ合セ甲ノ端ヲ乙ニ挾ミ置クヘシ（第三三圖）

第三三圖

(一)

(二)

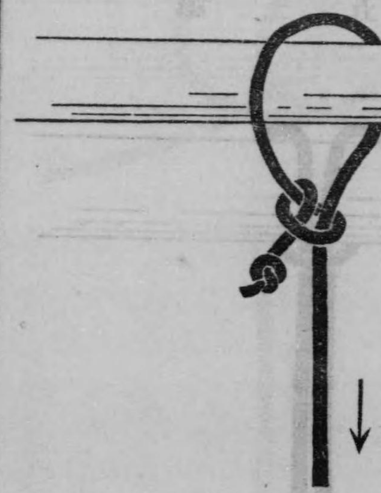
第二一三 棒ニ繩ヲ縛リ著クルニハ左ノ法アリ

甲 滑締結（シゴキムスビ）（第三四圖） 細繩若ハ絲ヲ用キルトキハ端ニ結節（ムスビダマ）ヲ造ルヲ要ス

乙 雲雀結（ヒバリムスビ）（第三五圖）

丙 水主結（カコムスビ）（第三六圖）

第三四圖



第三五圖

第三六圖

(一)

(二)

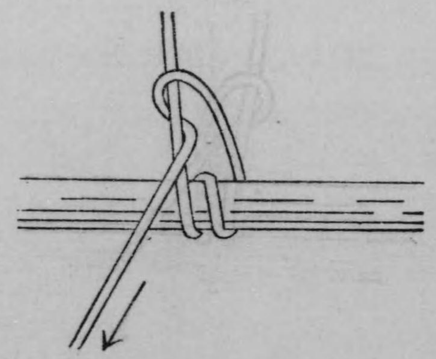
第二一四 繩ノ端ヲ棒ニ縛リ止ムルニハ第三七圖ノ如ク結フヘシ

第二一五 二本ノ竝ヒタル棒ヲ束ネ結フニハ繩ヲ數回纏ヒタル後角結(ツノムスビ)ニテ止ム(第三八圖)若シ纏ヒタル繩ノ下ニ隙アルトキハ先ツ繩ノ一端ヲ潛ラシメタル後角結ヲナス(第三九圖)

繩ヲ纏ヒ始ムルトキ先ツ雲雀結ヲナシ繩ノ兩端ヲ反對ノ方向ニ強ク引キツツ纏フトキハ緊マルコト確實ナリ(第四〇圖)

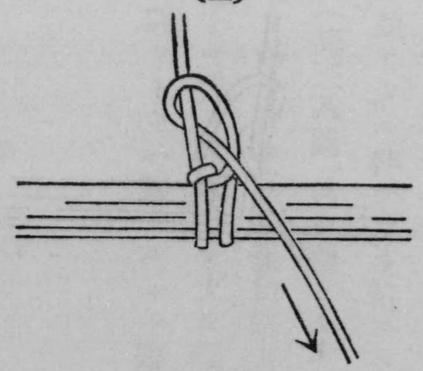
第三七圖

(一)



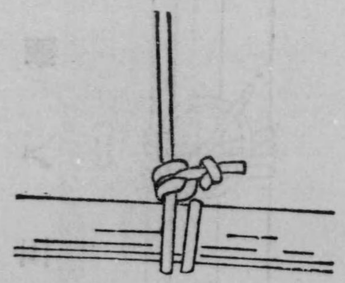
第三七圖

(二)

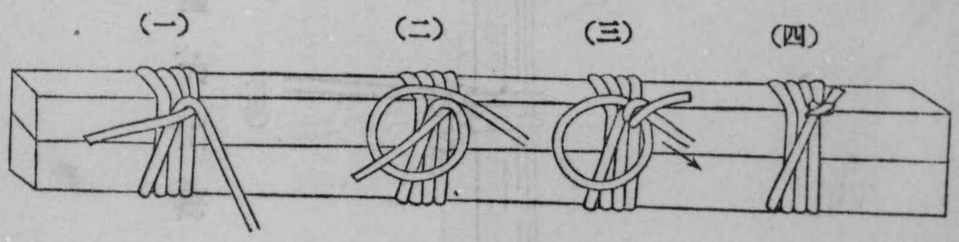


第三七圖

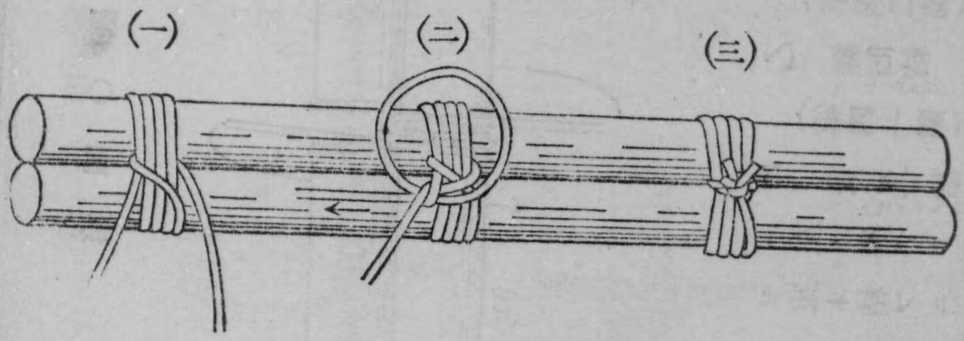
(三)



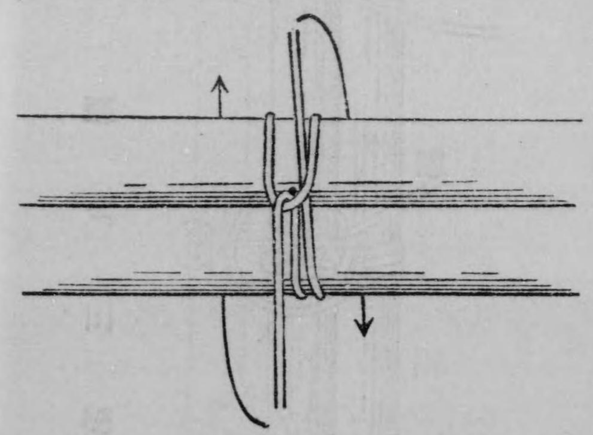
第三八圖



第三九圖



第四〇圖

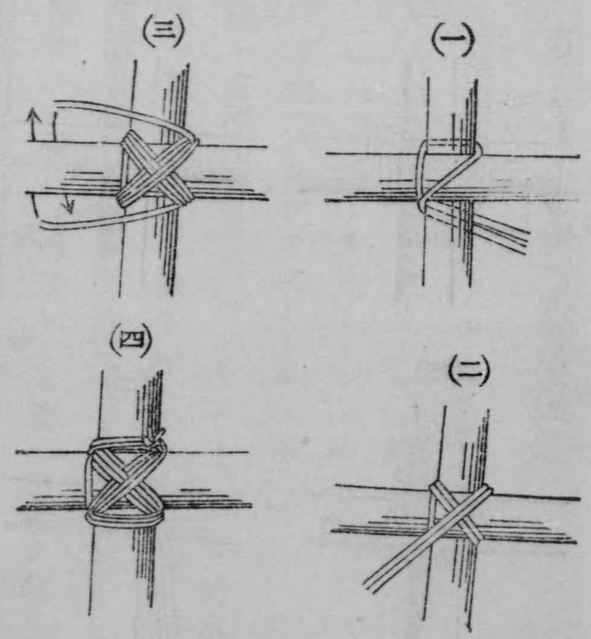


第二一六　二本ノ交叉セル棒ヲ束ネ結フニハ左ノ法アリ

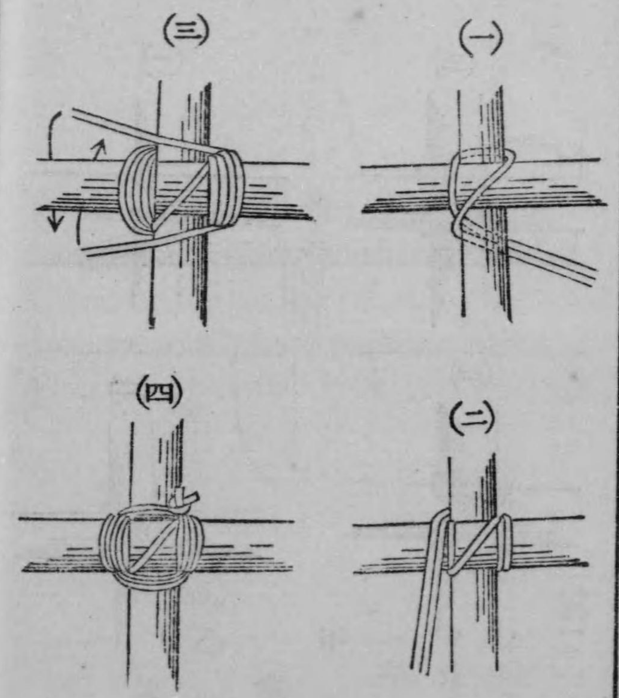
甲　交叉結（クヒチガヒムスビ）（第四一圖）

乙　纏回結（マキムスビ）（第四二圖）

第四一圖



第四二圖



第三十七章　急造擔架

第二一七　急造擔架ハ概ネ左ノ寸法ニ據ル

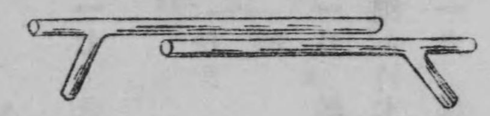
轅　二四〇「センチメートル」(約八尺)

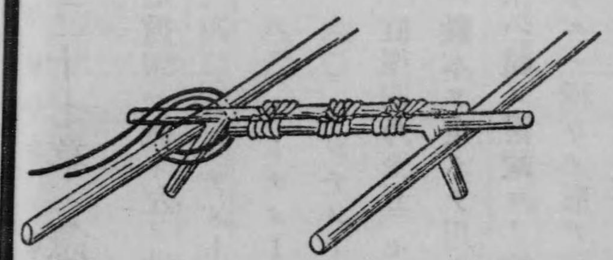
床　長サ　一八〇「セントチメートル」(約六尺)
　　幅　六〇「センチメートル」(約二尺)

第二一八　轅ハ直徑四乃至五「センチメートル」ノ竹木ヲ以テ造ル細キ竹木ハ數本ヲ束ネテ用ヰルコトアリ

第二一九　横木ハ轅ノ兩端ヨリ約三〇「センチメートル」ノ部ニ取リ著ク横木ニハ種々ノ形アレトモ要ハ患者ヲ載セタル後、

第四三圖





兩轅ノ間隔ヲ保タシムルニアリ同時ニ支脚ノ用ヲナスヲ得ハ最モ可ナリ

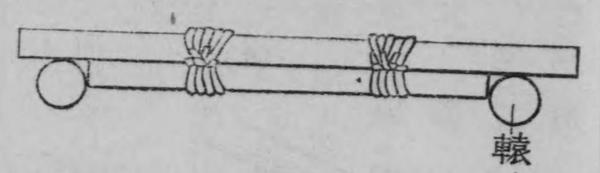
甲　二本ノ股木ヲ用ヰルモノ（第四三圖）

乙　長短二本ノ棒ヲ用ヰルモノ（第四四圖）

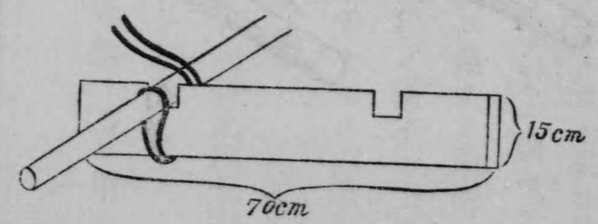
丙　切缺アル板ヲ用ヰルモノ（第四五圖、第四六圖）

丁　板又ハ棒ヲ釘著スルモノ（第四七圖）

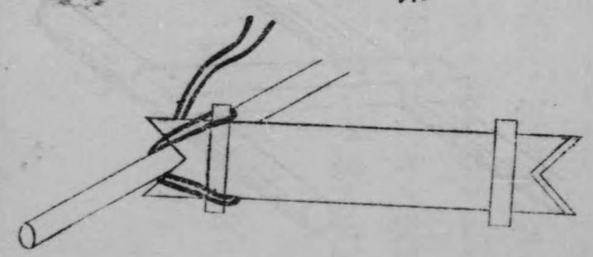
第四四圖



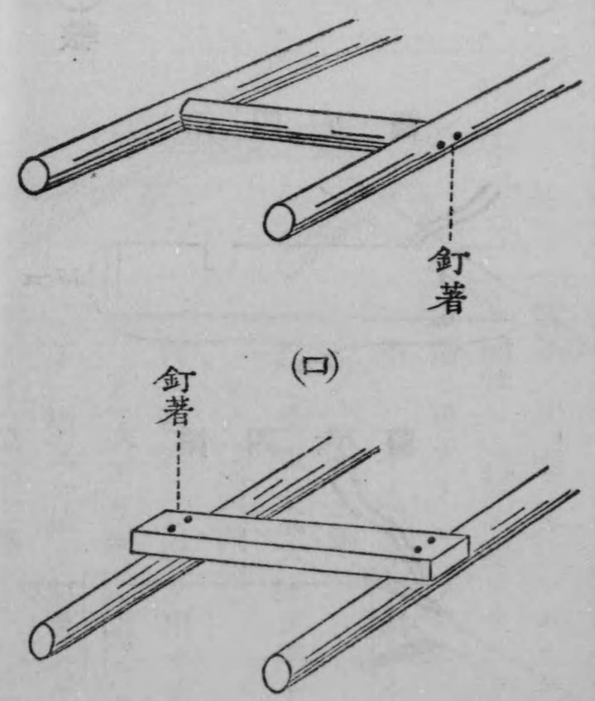
第四五圖



第四六圖



第四七圖

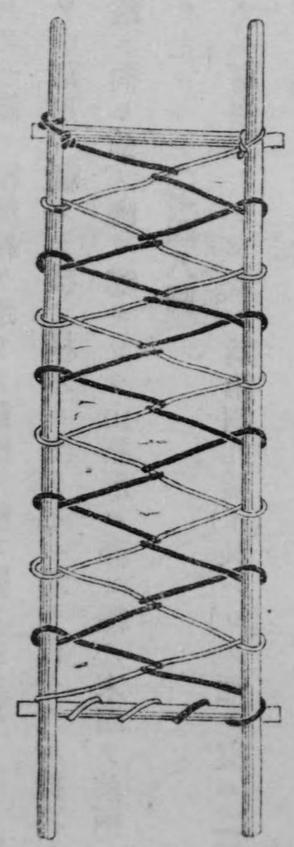


第二二〇 繩ニテ床ヲ編ムニハ長サ凡二〇「メートル」ノ麻細引、藁繩(拇指ノ太サヲ要ス細キモノハ數條ヲ使用ス)等ヲ取リ其ノ一端ニ滑締結ヲ造リテ前柄ニ結ヒ緊メ強ク引キツツ兩轅ヲ山路形ニ纏ヒテ後ノ横木ニ至リ之ニ卷キ付ケタル後再ヒ前端ニ向ヒ前ノ繩ヲ卷キツツ山路形ニ纏ヒ繩ノ末端ヲ前柄ニ結ヒ止ムヘシ(第四八圖)

床ヲ一層强固ナラシムル爲第四九圖(イ又ハロ)ノ如ク縱ニ二條ノ繩ヲ添フルコトアリ

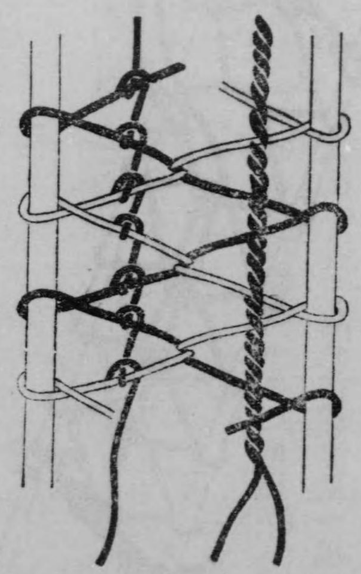
其ノ他第五〇圖ノ如キ編ミ方ヲ用ヰルコトアリ

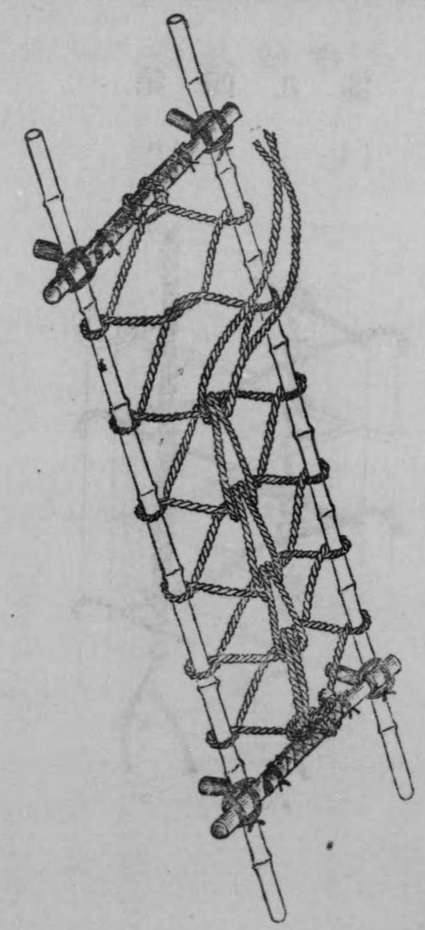
第四八圖



第四九圖

(イ)　(ロ)





第五〇圖

第五一圖　床トシテ「ヅック」、解キタル袋、莚、蓆等ヲ用ヰルトキハ之ヲ轅ニ縫ヒ著ケ又ハ「ヅック」ハ轅ニ釘著スルコトアリ

床ヲ縫ヒ著クルニハ第五一圖ノ如キ竹針ヲ用ヰ第五二圖(イ)又ハ(ロ)ノ如ク縫ヒ「ヅック」ヲ釘著スルニハ同圖(ハ)ノ如ク布片ヲ二重ニ轅ニ纏フ

第五一圖

第五二圖

第二二二 負紐ニハ繩、卷脚絆等ヲ用ヒ兩端ヲ結ヒテ環トナシ柄ヲ二回纏ヒテ肩ニ懸クヘシ（第五二圖（ニ））

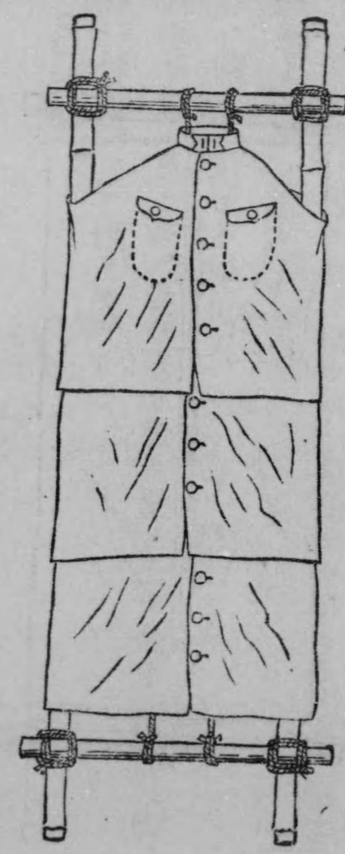
第二二三 有合ノ材料ニテ擔架ヲ急造スル法左ノ如シ

甲 被服擔架（第五三圖）

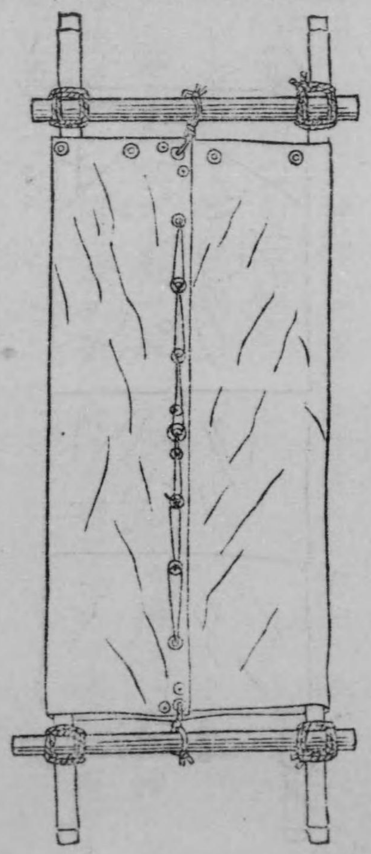
乙 天幕擔架（第五四圖）

丙 袋擔架 袋ノ四隅ヲ綻ハセ又ハ切リテ縱ニ二本ノ棒ヲ貫キ要スレハ二箇ノ袋ヲ繼キ合セテ床ヲ長クシ適宜ノ横木ヲ取リ著クヘシ

第五三圖



第五四圖



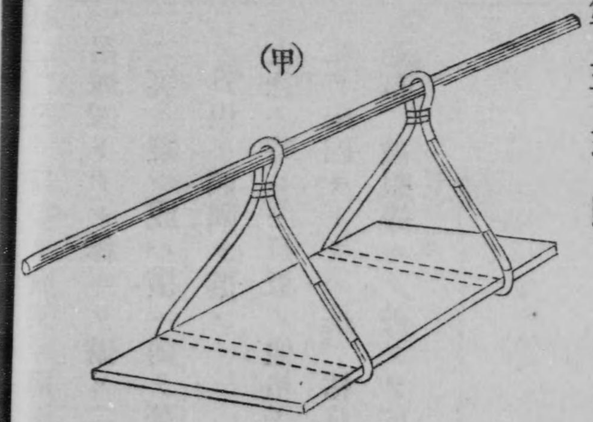
第二二四　戸板ヲ擔架ニ用ヰルニハ割竹、蔓、細引等ヲ用ヰテ吊擔架トナシ棒ニテ擔ヒ(第五五圖甲、乙)若ハ二本ノ棒ヲ戸ノ裏ニ縦ニ或ハ横ニ縛リ著ケ又ハ釘著シテ擔ヒ(第五六圖)若ハ戸板ノ四隅ヲ擔フ

火急ノ時ニハ戸板ノ他格子、梯子等ヲ應用スルコトアリ

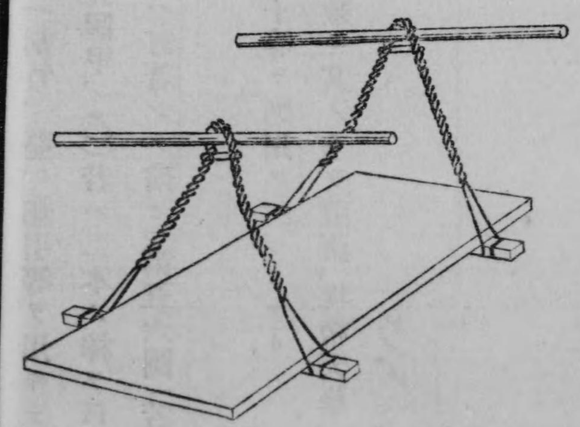
凡テ床固キトキハ藁、枯草等ヲ敷キ其ノ上ヲ莚蓆、携帶天幕、毛布、被服等ニテ被フヲ可トス

第五五圖

(甲)

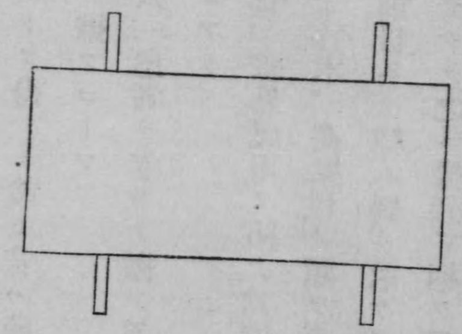


(乙)

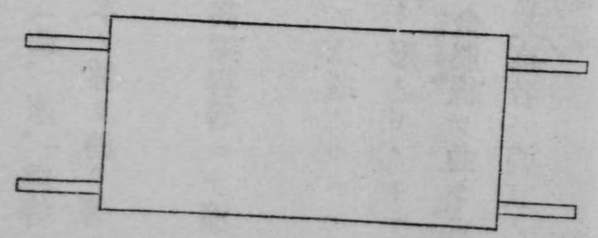


第五六圖

(イ)



(ロ)



第二二五　患者坐位ニ堪フルトキハ畚（莚、蓆、繩等ニテ急造スルコトヲ得）ニ載セ若ハ椅子ニ二本ノ棒ヲ縛リ著ケ之ニ坐セシメ擔フコトアリ

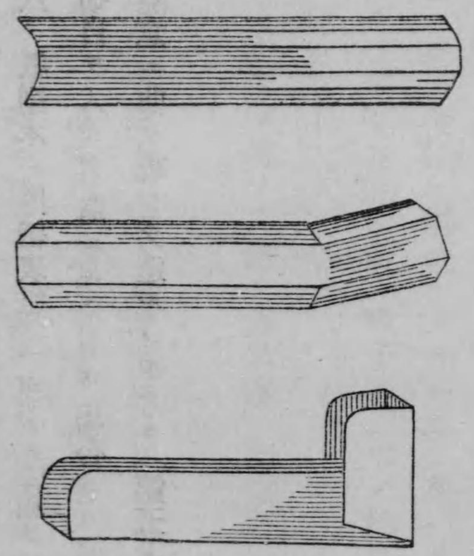
第二二六　患者ヲ卷キテ搬フ爲竹木、高粱稈等ニテ簾ヲ急造スルコトアリ

第二二七　寒暑風雨ヲ防ク爲擔架日覆ヲ急造スルニハ携帶天幕支柱、竹木、高粱稈ノ類ヲ束ネテ ╪ 形ノモノトナシ擔架ノ床ノ前後ニテ轅ニ縛リ著ケ若ハ太キ金屬線（ハリガネ）ヲ曲ケ ∩ 形ノモノトナシテ之ニ擔架ノ柄ヲ貫キ携帶天幕若ハ適宜ノ材料ヲ裝フヘシ

第三十八章　急造副木

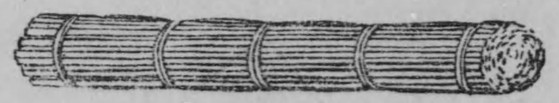
第二二八　紙副木ハ厚紙表紙、「ボール」箱ノ類ヲ適宜ノ大サニ切リ切目ヲ入レテ造ルモノトス場合ニヨリ熱湯ニ浸シタル後、隨意ニ曲ケ乾シテ造ルコトアリ（第五七圖）

第五七圖

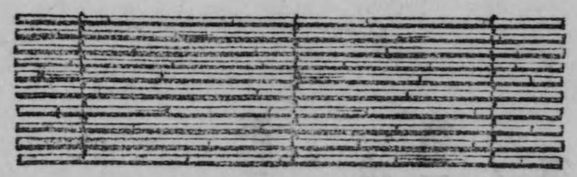


第二二九　藁副木ハ清潔ナル麥稈又ハ粟稈ニテ造リタルモノヲ可トス（第五八圖）

第五八圖



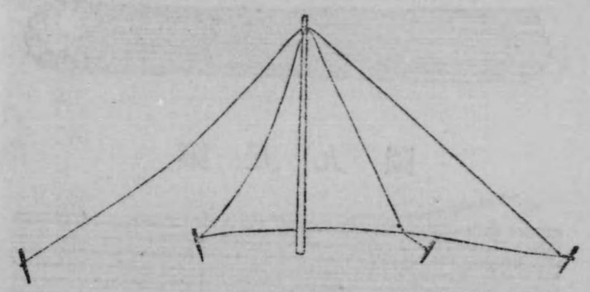
第五九圖



第二三〇　高粱副木ヲ造ルニハ清潔ナル高粱稈ヲ適當ナル長サニ切リ其ノ數本ヲ金屬線ニテ連ヌキ若ハ麻糸ニテ編ミ簾ノ形トナシテ用ヰルヘシ（第五九圖）

此ノ副木ハ竹木等ニテ造レルモノニ優リ且其ノ製作容易ナリ

第六〇圖



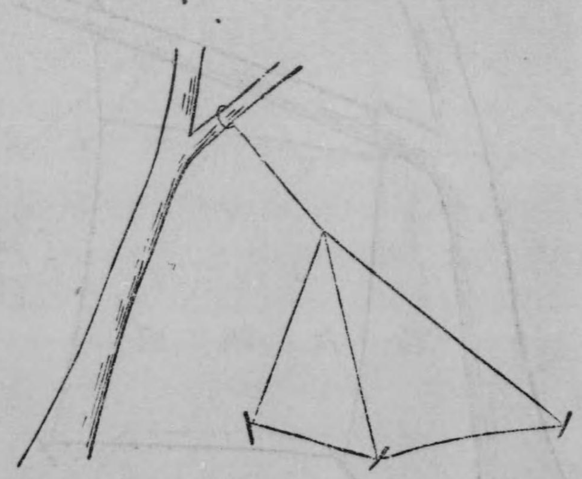
第十編

第三十九章　携帶天幕幕舍

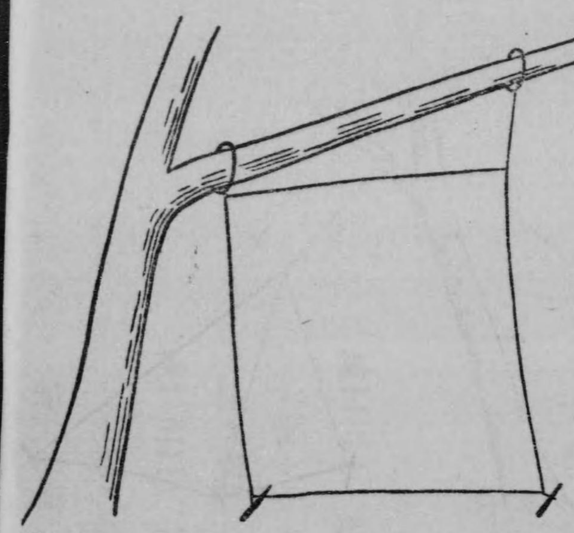
第二三一　携帶天幕ノ構造及取扱ニ關シテハ携帶天幕製式及使用法ヲ參照スヘシ

第二三二　一幕ヲ以テ患者ニ一時ノ日覆ヲ造ルニハ第六〇圖乃至第六二圖ノ如クスヘシ

第六一圖

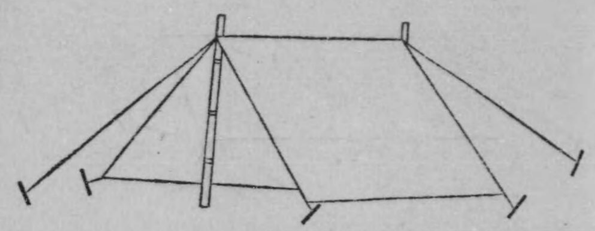


第六二圖

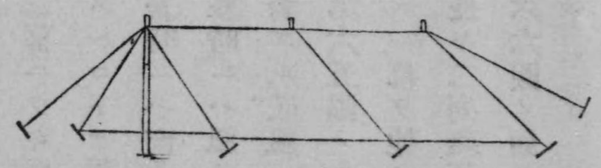


第二三三　第六三圖及第六四圖ハ二幕及四幕ヲ用キタル二列繼幕舍ノ構造ヲ示ス此ノ式ニテ六幕、八幕、十幕等ノモノヲ建設スルコトヲ得

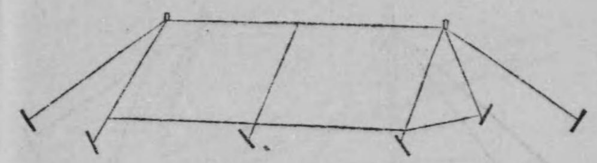
第六三圖



第六四圖



第六五圖

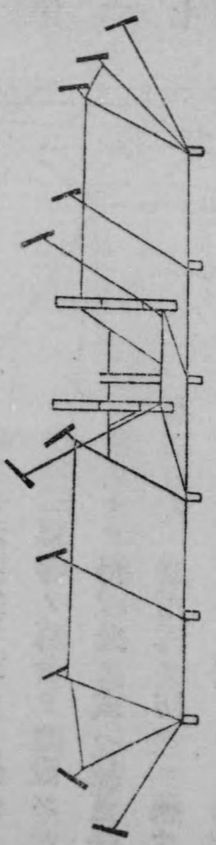


二列繼幕舍ハ二幕ニツキ臥位患者一名乃至二名ヲ收容スルコトヲ得

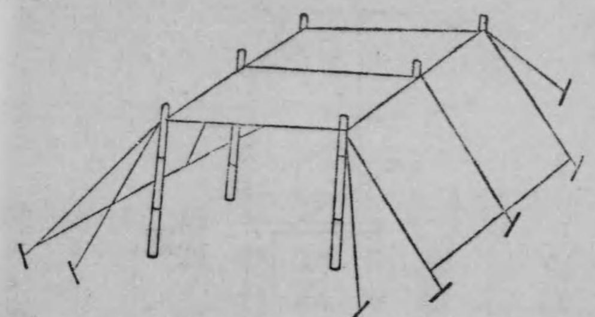
二列繼幕舍ハ暑時ニハ南北ニ長ク建設シテ日射ヲ避ケ寒時ニハ風ノ方向ニ並行シテ建設シ風ニ對スル破風ニ更ニ一幕ヲ繼キ合ハスコト第六五圖ノ如クスヘシ

極寒ノ時ハ更ニ一幕ヲ他ノ破風ニ垂レ入口ヲ覆フヘシ長キ二列繼幕舍ハ兩破風ヲ閉チタル後第六六圖ノ如ク側面ニ入口ヲ設クルヲ便トス

第六六圖

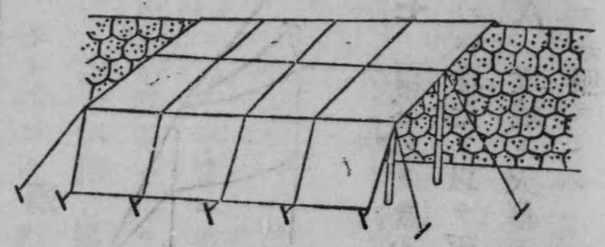


第六七圖



第二三四　第六七圖ハ六幕ヲ用ヰタル三列繼幕舍ノ一例ヲ示ス此ノ式ニテ九幕、十二幕等ノ幕舍ヲ建設スルコトヲ得、此ノ式ハ屋蓋平坦ナル爲雨雪ヲ防クニ便ナラサレトモ廣濶ニシテ暑時ニ適シ三幕ニツキ臥位患者二名乃至四名ヲ收容スルコトヲ得

第六八圖



第二三五　第六八圖ハ地物ヲ利用シテ建設セル幕舍ノ例ニシテ少ナキ幕數ヲ以テ多人數ヲ收容シ得ルノ利アリ

第二三六　第六九圖ハ二十四幕ヲ用ヰタル四列繼幕舍（築營敎範參照）ニシテ寒時ニ適シ臥位患者二十名乃至三十名ヲ收容スルコトヲ得

第二三七　雨雪ノトキハ幕舍ノ周圍ニ溝ヲ穿チテ排水ヲ利シ又寒時ニハ堆土ヲ以テ天幕下緣ノ間隙ヲ防クヲ要ス

第二三八　堆墻ト天幕トノ竝用及燎火ノ使用等ニ關シテハ築營教範ヲ參照スヘシ

第二三九　携帶天幕ノ建設ニ際シテハ風向及降雨ニ應シテ幕布ノ繼合セニ注意シ又支柱ノ埋沒ヲ防クヲ爲木片若ハ石、瓦等ヲ礎トナスヲ要ス

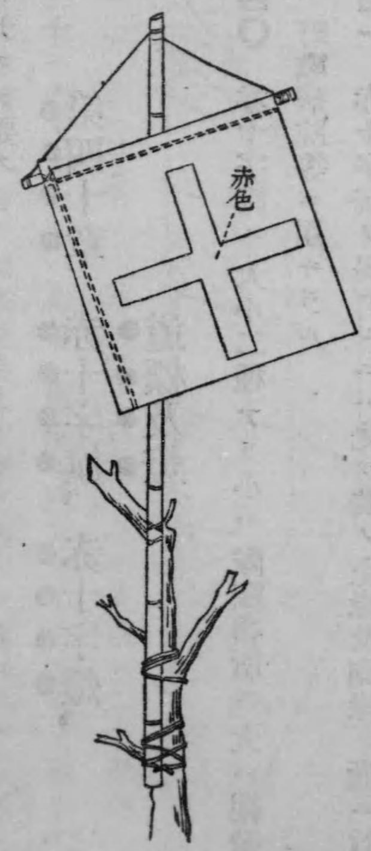
第四十章　赤十字旗、赤十字燈、道標及燈

第二四〇　赤十字旗ニ大小二種アリ小ハ隊繃帶所ニ大ハ繃帶所、野戰病院等ニ用ヰラル

第二四一　赤十字旗ヲ掲クルニハ先ツ其ノ上緣及側緣ノ囊ニ竹木等ノ棒ヲ挿シ入レテ其ノ交叉部ヲ縛リ紐ニテ第七〇圖ノ如

ク吊リ下クヘシ

第七〇圖



第二四二 赤十字燈ヲ掲クルニハ點火シタル後提鎖ノ環ニ組紐ヲ結ヒ著ケ別ニ適宜ノ場所ニ螺旋附滑車ヲ螺チ著ケ組紐ヲ滑

車ニ通シテ燈ヲ引キ上クヘシ

第二四三 道標ハ染抜ノ布ニシテ其ノ上下兩縁ノ孔ニ細キ繩ヲ通シテ目ニ著キ易キ處ニ縛リ著ケ繃帶所、野戰病院等ニ至ル道ヲ示スモノナリ

第二四四 隊繃帶所ニハ搜索燈、繃帶所ニハ搜索燈、洋燈及手術燈竝著色提灯アリ搜索燈ハ主トシテ患者ノ搜索ニ用ヰルモ亦隊繃帶所及繃帶所内ニテ用ヰルコトアリ

(擔架教程奥附)
(定價金參拾錢)

大正八年十二月二十日印刷
大正八年十二月二十五日發行

陸軍省
檢閲濟

翻刻
發行者　東京市麹町區隼町四番地
兵用圖書株式會社
代表者　小林又七

印刷者　東京市麹町區隼町四番地
小林又七
電話九段四一九番
電話九段八五〇番

印刷所　陸軍省構内
小林又七工場
電話新橋九四一番

發行所　東京市麹町區隼町四番地
兵用圖書株式會社
振替貯金東京一八〇八八番

1-223

終